

経営学部

氏 名 森 宏之 (MORI Hiroshi)

所 属 経営学部 経営学科

職 種 教授 経営学部長

生年月日 1956年2月20日

[履 歴]

[学 歴]

1978年3月 早稲田大学 社会科学部 社会科学科卒業

1998年3月 法政大学大学院 社会科学研究科 経済学専攻 修士課程修了

2013年3月 埼玉大学大学院 経済科学研究科 博士後期課程 満期退学

[学 位]

修士(経済学)

[職 歴]

1978年4月 クラウン・リーシング株式会社 入社

1998年4月 青森短期大学 商経科 講師

2004年4月 青森短期大学 商経科 助教授

2007年4月 青森短期大学 地域創造学科 准教授

2008年4月 青森短期大学 地域創造学科 教授

2013年4月 青森大学 経営学部 教授

2015年4月 青森大学附属図書館長

2016年4月 青森大学経営学部 学部長

[所属学会]

証券経済学会、日本金融学会、日本ベンチャー学会、日本財務管理学会、東北経済学会、生活経済学会、日本産業科学学会

[教育活動]

[担当科目]

金融論、ベンチャー経営論、企業財務論Ⅰ、経済学、社会科学方法論演習、専門演習

[ゼミ指導]

2016年度 (専門演習3年) : 6名

(専門演習4年) : 10名

[教育指導に関する特記事項]

2004年に青森県の調査委託事業を当時担当中の青森大学社会学部4年生ゼミの授業の一環として実施した青森市及び五所川原市における高齢者の地域交流に関するエコマネー実験の調査結果に基づき、青森県の『エコマネー導入マニュアル』が作成されたことが、東奥日報・毎日新聞等で記事(2004年4月4日)として報道された。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 証券化及び金融制度に関する研究

(2) 日本の不動産業に関する歴史的分析

(3) 社会人の高度職業教育に関する調査研究

[著書、論文、総説]

1. 『キャリアアップのための大学院進学のスズメ』中央経済社, 2001年4月
2. (分担執筆) 『大槻金融辞典』大月書店, 2002年4月
3. 『日本版 MBA 取得サクセスストーリー』中央経済社, 2002年8月
4. (共同執筆) 『エコマネー導入マニュアル』青森県健康福祉部高齢福祉保健課、2004年3月
5. 「保険会社によるABS保証について」, 証券経済学会『証券経済学会年報』第34号、2001年5月
6. 「金融商品および金融機関に関する意識—2001年度青森地域生活調査から—」, 青森大学地域問題研究所『地域社会研究第10・11合併号』, 2003年3月
7. 「債務不履行に関する社債関係者の諸問題」, 青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』第26巻第2号, 2003年11月
8. 「不動産鑑定評価基準の改正と不動産証券化市場への影響」, 東北経済学会『東北経済学会年報』, 2008年3月
9. 「不動産証券化市場の動向と投資家保護 - 不動産証券化における情報開示について-」, 証券経済学会『証券経済学会年報』, 第43号, 2008年7月
10. 「上場不動産投資信託の海外投資自由化について」, 日本財務管理学会『日本財務管理学会年報』, 2009年5月
11. 「証券化の再検討について」証券経済学会『証券経済学会年報』第45号, p295-297, 2010年
12. 「J-REITの海外投資制度の諸問題」埼玉大学経済学会『経済科学論究』第8号, 2011年
13. 「J-REITの資本政策手段の規制緩和について」, 青森大学学術研究会『研究紀要』第36巻-第3号 pp165-176, 2014年2月
14. 「J-REITの海外不動産間接投資における資産評価について」, 資産評価政策学会『資産評価政策』第16巻-第3号, pp18-24, 2015年9月

[書評]

1. 相沢幸悦『環境と人間の転換期の経済学—転換期の資本主義を読む』の書評、『季刊 個人金融』2014年冬号、一般財団法人ゆうちょ財団貯蓄経済研究部, 2014年2月

[学会発表]

1. 「カラオケに見る技術革新と市場構造の変化について」日本産業科学学会 全国大会報告, 1996年11月
2. 「負債のエージェンシーコスト仮説から見た資産流動化の意義」KASG 関東会計学研究グループ本部総会報告, 1997年11月
3. 「金融保証保険について」日本産業科学学会 全国大会報告, 2000年7月
4. 「市場型間接金融と集団投資スキーム」に対する討論者報告, 2001年5月
5. 「社債デフォルトと投資家保護問題」東北経済学会第54回大会報告, 2003年9月
6. 「不動産証券化市場の現状と課題」東北経済学会第57回大会報告, 2006年10月
7. 「不動産鑑定評価基準の改正と不動産証券化市場への影響」証券経済学会第67回全国大会報告, 2007年6月
8. 「日本銀行の金融政策とJ-REIT市場の影響について」日本財務管理学会春季全国大会報告, 2016年6月

[その他の活動]

[研究費獲得状況]

青森県健康福祉部高齢福祉保健課 調査委託研究「高齢者相互支援体制検討事業のための「ハート&ハート計画」(2003年7月～2004年3月)4,000,000円

[公開講座、講演、セミナー]

1. 2000年5月 「金融ビックバンとは何か」青森県川内町
2. 2007年11月 「サブプライムローン問題と日本経済」青森市ロータリークラブ
3. 2011年1月 「ベーシックインカムと地域経済」青森県委託事業「家庭教育を支援する地域づくりプロジェクト」講演会
4. 2016年6月 「広岡浅子と「幕末の豪商たちの軌跡」」青森大学オープンカレッジ市民大学講座

[学内各種委員]

2016年度：青森大学経営学部学部長、青森大学総合研究所産業研究班班長

入試管理委員会、就職支援タスクフォース、自己点検評価・認証委員会、学生募集タスクフォース

[学外各種委員]

青森県総合開発審議会委員(2004年1月～2008年1月)

青森県新青森県基本計画策定委員会委員(2004年1月～2008年1月)

青森生活創造推進プランフォローアップ委員会委員(2004年1月～2008年1月)

青森シュタイナー教育研究交流会幹事(2003年1月～2010年12月)

全国アートNPOin青森実行委員(2007年5月～2007年10月)

特定非営利法人 日本商標機構理事(2009年7月～現在)

青森市指定管理者候補者選定委員会委員(2010年5月～現在)

青森市特別職報酬等審議会委員 会長職務代理者(2016年8月～現在)

氏名 中田吉光 (Nakata Yoshimitsu)

所属 経営学部経営学科

職種 教授

生年月日 1966年1月6日生

[履 歴]

[学 歴]

1988年3月 国士舘大学体育学部体育学科卒業

[学 位]

体育学士

[職 歴]

1988年4月～1989年3月 大阪府大阪市立生野工業高等学校 非常勤講師

1989年4月～1990年3月 香川県坂出市立坂出中学校 常勤講師

1990年4月～2002年3月 香川県立坂出工業高等学校 教諭

2002年4月～2003年3月 青森山田学園本部 事務

2003年4月～2004年3月 青森短期大学 助手

2004年4月～2009年3月 青森短期大学 講師

2009年4月～2012年3月 青森短期大学 准教授

2012年4月～2015年3月 青森大学 准教授

2015年4月～ 青森大学 教授

[受 賞]

2004年8月 優秀指導者賞 (東北体操協会)

2002年～2011年、2014・2015年 (12回)

優秀指導者賞 (青森県体操協会)

2005年～2011年、2014・2015年 (9回)

青森県優秀スポーツ指導者賞 (青森県体育協会)

2010年11月 県褒章受章 (青森県知事)

2012年11月3日 スポーツ特別功労賞 (階上町教育委員会)

2015年2月13日 平成26年度青森市スポーツ賞

[所属学会]

日本体育学会、日本スポーツ心理学会

[教育活動]

[担当科目]

スポーツ心理学、救急法、体育実習 (器械運動)、体育実習 (体力づくり運動)、体育方法学 (柔道・ダンス)、保体科教育法Ⅳ、体育実技A、体育実技B、(スポーツ政策論)

[卒業研究指導]

スポーツコースの学生らしく、自分の競技経験等からテーマを選び、自分にしか書けない(調査や統計) 卒論に取り組むよう指導している。そこで、週一回の授業では、学生一人ずつが調査・研究の進行状況を発表したり、周りからのアドバイスを受けたり協力したりなどを行っている。それを通して、個々の学生の発言力が高まり、コミュニケーション能力も向上している。

[ゼミ指導]

2004年度 7名、 2005年度 8名、 2006年度 12名、

2007年度 9名、 2008年度 3名、 2009年度 6名、

2010年度 4名、 2011年度 2名、 2012年度 6名、

[教育指導に関する特記事項]

1. スポーツ心理学における実践（2006～現在）

元シンクロのオリンピック選手が作成したスポーツにおける心理診断テスト（質問表）で自らのストレスパターンを考えさせる。またその集計結果を本学以外のスポーツ選手達の情報を入手することにより、地域・種別といった幅広い分野での心理状態を考察できる。

授業導入では、学生が今旬のスポーツニュース（インターネット・新聞）を取り上げ、それぞれ監督や選手の立場になり、戦略や心理状態などを皆で議論する。

2. スポーツ政策論における実践（2012～2014）

我が国におけるスポーツ振興方策と行政について、全体的枠組みと根拠法令の概要を理解し、地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりを具体的に把握する。特に平成22年に「スポーツ立国戦略」が発表され、平成23年にスポーツに関する法律「スポーツ基本法」が制定され、平成24年には「スポーツ基本計画」が発表されたことから、国によるスポーツへの取り組みが大きく変化してきていることを学ぶ。

また、私が今まで携わってきたCMやドラマ、スポーツイベントの制作当初から完成までの過程やそれに伴う取り組みについて紹介する。

3. 体育実習（体づくり運動）における実践（2012～現在）

以前はたくさんの遊びの中から自然と得ていた身体能力は、今では意識して養っていかねばならない時代となった。しかも、日常生活の中でもパソコン作業や立ち仕事での姿勢、またリラックスできる自分の部屋ですら座る場所が決まっている。そこから慢性的な身体の歪みが発生し、体調をきたすこともあるため、その歪みを取り除くための身体ほぐしや文部科学省推進の身体づくり運動を参考に体得する。

4. 体育実習（器械体操）における実践（2009～現在）

技を習得するために必要な能力を身に付けるとともに、段階的に自分の運動課題にしっかりと取り組めるように指導している。また、その解決にあたっては自らの考えや工夫が感じられるような、課題達成（できばえ）楽しさ（喜び）を味わうことができるようにさせている。

内容としては、指導方法は勿論のこと、特に補助方法を習得することで仲間と協力して安全で計画的に活動できるようにしている。

5. 救急法における実践（2006～現在）

日本赤十字社青森県支部主催救急法救急員養成講習会とタイアップし行っている。一般の受講生も参加しており、資格取得（救急法救急員）を重視している。

6. スポーツ方法学（柔道・ダンス）における実践（2014～現在）

これまで「武道またはダンス」としての中学校選択領域であったが新学習指導要領では「武道」と「ダンス」を含めた全ての領域が必修となり、特に柔道は授業中のケガが多く、部活動においては死亡事故も出ており、文部科学省からも特別指導に対する通達があった。また、青森県教員採用試験でも柔道は必須となっている。

ダンスにおいては身体で表現するといった内容を盛り込み、最終段階としてグループでの創作・発表を行い、その達成感を自他を認め合うことを目的としている。柔道・ダンス共に安全で楽しく行うための授業展開について学習させている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 男子新体操（徒手運動）について
2. 転回系（マット運動）の指導及び補助について

[著書、論文、総説]

1. 「男子新体操」
ー選手とコーチの独習マニュアルー (アイオーエム社、2009. 2. 2)
2. 「青森大学新体操部の実情」(学術研究紀要 第36巻-第3号、2014. 2)
3. 公益財団法人 日本体操協会 新体操男子規則 2015年度版

[学会発表]

「第16回日本レーザー・スポーツ医科学学会」においてシンポジウム：運動器疼痛対策と運動連鎖を応用としたスポーツ外傷・傷害からの復帰、予防への取り組み、男子新体操の現状を発表する(於：慶應義塾大学日吉キャンパススポーツ棟) スポーツ・レーザー医科学学会 (2012. 12. 1)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 全国指導者・選手合同合宿 (2009～2016)
2日間の合同合宿(ジュニア・中学・高校・大学)を行い、全国からの指導者(特に講習)・選手(特に実技)を対象に主催者として開催した。現在では東北・関東・関西・九州の4ブロックに分かれ参加者は600名を超えている。
2. 男子新体操公認審判員、男子新体操委員会専門アドバイザー (2015. 4～)、(前) 男子新体操委員会委員長 (2009～2014. 10)
各種全国大会において(インターハイ・全国高校選抜・全日本ユースチャンピオンシップ・全日本ジュニア・全日本社会人等) 上級審判及び主任審判員として重責を担い業務にあっている。審判業務の最高責任者を担っている。
新体操第1種公認審判員認定講習会や審判技術研修会の講師として講習会を開催する。1日目講習、2日目筆記試験及び実技試験を担当し合否の判定も行った。(2010. 2. 13～14、2012. 1. 28～29、2015. 2. 21～22)
3. 男子キッズ選手権大会 (2012. 1. 8、2013. 1. 10)
(前) 男子新体操委員会委員長として普及の一環を目的として、5歳～小6までを対象に特設ルールのもと、全国初となる大会を長野県の協力を得、開催した。
4. 救急法救急員養成講習会 (2013. 9. 2～4、2014. 9. 1～3、2015. 8. 31～9. 2)
本学において日本赤十字社青森県支部と合同で開催した。
5. 教員免許状更新講習 (2013. 9. 7、2014. 8. 5)
本学において2回、教員免許状更新講習(マット運動並びに表現)を開催した。
6. 模擬授業 (2013. 9. 12)
大湊高校大学見学会において模擬授業(アスリートとアーティストの融合)を行う。
7. 記念講演等
 - ・ 社会保険診療報酬支払基金 (2013. 1. 30)
「一般教養研修」の講師として、同青森県支部職員に講演する。
 - ・ 第62回北海道・東北ブロック保育研究大会 (2013. 7. 12)
同研究大会(700人参加)において記念講演「子ども達の未来へ」を行う。
 - ・ 大阪市立高等学校教育研究会講演 (2014. 5. 16)
大阪市教育センターにおいて、「男子新体操の現状と取り組み」と題し、平成26年度大阪市立高等学校教育研究会保健体育部会において講演する。
 - ・ はしかみキャンパス講演会・階上町連合PTA研修会 (2014. 7. 13)
「子ども達の未来のために」と題し、ハートふるはしかみにおいて(約300名)講演を行った。
 - ・ 第52回全国知的障害福祉関係職員研究大会 (2014. 9. 5)
特別講演I「青森から世界へ」と題し、リンクステーションにおいて上記関係者約1,700名の前で講演を行った。

- ・平内町連合PTA研究大会（2014. 9. 6）
平内町勤労青少年ホームにおいて（約 200 名）講演を行った。
- ・青森県スポーツ推進委員実技研修会講師（2014. 12. 6）
県内のスポーツ指導員 80 名を対象に脱短命に対する講演を行った。
- ・平成 27 年度都道府県体育協会連合会「東地区」事務局長研修会（2015. 11. 26）
ホテル青森にて、「青森から世界へ」～男子新体操の普及と文化の構築～と題し、講演を行う。
- ・青森山田高校野球部（2016. 3. 2）
全国高校選抜野球大会に向けての心構えの講演を行う。

[学内各種委員]

経営学部経営学科長、入試管理委員会、大学協議会、資格審査委員会

「短大学生委員会委員長」（2006～2012）の時代には下記に記載したの 2 点について取り組んだ。

1. 支援システムとは別に毎月の欠席者（公休は除く）を専任教員が集計しその統計を全教員が把握することにより、生活の乱れ等を早期に指導できるようにしている。保護者との連絡を密にし、必要あれば家庭訪問を行い、登校を促している。
2. 月一回学生（クラスの代表）と学生委員会の教員とのミーティングを行い、快適な学校生活を送っていくことを目的とする忌憚のない意見交換をして相互理解に努めている。

[学外各種委員]

1. （公財）日本体操協会 男子新体操委員会 委員長（2011. 4～2014. 10）
2. （公財）日本体操協会 男子新体操委員会 専門アドバイザー（2015. 4～現在）
3. 全日本学生体操連盟 理事（2008. 4～現在）
4. 東北・北海道学生体操連盟 副会長（2009. 4～現在）
5. 東北体操協会 新体操男子専門委員長（2009. 4～現在）
6. 青森県体操協会 新体操男子専門委員長（2009. 4～現在）
7. 青森県ラジオ体操連盟 理事（2012. 4～現在）
8. 第 67 回国民体育大会新体操競技 競技副委員長（2012. 9. 28～2012. 10. 1）
9. 第 13 回・14 回全国体操小学生大会 団体体操役員長（2013. 3. 26～28、2014. 3. 26～28）
10. 青森市立幸畑小学校 P T A 副会長（2014. 4～現在）
11. 青森市スポーツ推進審議会委員（2015. 4～現在）

[課外活動]

新体操部部长 兼 監督

<国内競技会>

2002～2015 全日本学生新体操選手権大会優勝（14 連覇中）

全日本新体操選手権大会優勝（2 年連続 11 回目の優勝）

<海外>

1. アジア競技大会（2002. 9）
アジア競技大会にエキジビションとして参加する。（韓国・釜山）
2. 世界選手権大会（2003. 9）
第 26 回世界新体操選手権大会 G A L A に参加する。（ハンガリー・ブダペスト）
3. 国際大会（2003. 11、2005. 11）

男子新体操国際オープンで優勝（2回）する。

4. 国際活動

- (1) UCLA' s National NCAA Champion (UCLA 大学サントペテルス校) のエキジビションとして参加する。(2004. 2)
- (2) Unive 'Gym Gala (オランダ)・2006 Feuerwerk der Turnkunst (体操芸術の花火 in ドイツ) 2カ国において「日本の体操」として招待される。(2006. 12. 20～2007. 1. 16)
- (3) ドイツ・ニーダーザクセン州体操協会主催、ヨーロッパで最も人気のあるショー、2007 Feuerwerk der Turnkunst に2年連続で招待をうける。ベルリン他16都市26公演。観客動員数10万5千人に及ぶ。(2007. 12. 28～2008. 1. 18)
- (4) 2011 Feuerwerk der Turnkunst に3度目の招待をうける。ベルリン他23都市32公演・観客17万人から絶賛を受ける。(2010. 12. 26～2011. 1. 25)
- (5) オランダ (アムステルダム4公演)・ドイツ (23都市38公演) で演技を披露する。延べ20万人が来場する。(2013. 12. 19～2014. 1. 24)
- (6) S4E GYM GALA X-MAS TOUR2014 (オランダ4公演・ベルギー2公演) に日本の体操として招待を受け演技を披露する。(2014. 12. 11～12. 27)
- (7) ロシア新体操80周年記念GALA (サントペテルベルク・マリンスキー劇場) に世界各国の代表選手が集結する中、男子 (日本だけ) 代表として招集され演技を行う。(2015. 2. 7～2. 17)

<特別活動>

1. CM (コマーシャル) カルピスソーダ2年連続出演 (2009. 5. 9～10 撮影)
青森県反射材大作戦CM撮り (2014. 9. 30)
青森県環境生活部県民生活文化課の企画、青森博報堂からの要請で夜間事故を防ぐためのCM (11月より放送) に出演する。
2. TBS 系列連続ドラマ「タンブリング」(2010. 1. 25～毎週土曜 19:56～)
3. 舞台「BLUE」(2013. 1. 26)
「亡き教え子の夢」と「青森の文化」の構築のために、新体操界初となる舞台公演「BLUE」を開催。その想いに賛同していただいたプロのダンサーや振付師・舞台関係の協力を得、リンクステーションホール (青森市文化会館) 超満員の2000人を集客した。青森山田高・青森大の他、卒業生で結成している「BLUE TOKYO」、キッズから中学生までの「BLUE TOKYO KIDS」というアスリートとアーティストの融合を創り上げた。
4. 特別公演「青森大学男子新体操部」(2013. 7. 18)
国立代々木第二体育館において世界的デザイナー三宅一生氏の発案により、その名も「青森大学男子新体操部」という一夜限りのショーを開催した。皇室から人間国宝の方をはじめ、世界のマスコミ関係者200社を含む3000人を招待してのイベントで想像を絶するものであった。その演出に Daniel Ezralow (パリコレやソチ冬季オリンピック開会式演出)、その他、モーショングラフィックは中村勇吾、音楽はオープンリールアンサンブル、ミュージックスーパービジョンは畑中正人、ドキュメンタリーフィルムディレクションは中野裕之と各界で活躍するクリエイターが参加した。
5. 映画「FLYING BODIES」(2013. 10. 3)
全国に先駆け本学において映画「FLYING BODIES」(新体操部のドキュメンタリー映画) を上映する。(11月30日～テアトル新宿・12月12日立川シネマシティー・12月14日～テアトル梅田で上映、2014. 1. 2BSフジで放送)
6. 「BLUE Vol. 2」(2014. 2. 7～8)
2日間3公演を行い3000人の集客を得、確実に青森の文化として根付いてきている。

7. NHK青森と「元気あつぷる体操」制作（2014.3～現在）

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとしてNHKのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内40市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

- ・階上保育園（2014.7.13）
- ・青森市老人クラブ連合会（2014.9.1）
- ・生涯学習フェア2014～学びと社会参加の集い～（2014.10.18）
- ・NHKあおり会館公開2014（2014.10.19）
- ・「あおり市民健康アップフォーラム」（2014.11.20）
- ・青森県立十和田工業高等学校健康教室講師（2014.12.4）
- ・青森県スポーツ推進委員実技研修会講師（2014.12.6）
- ・「元気あつぷる体操で健康ライフ！」幸畑阿倍野市民館（2014.12.20）
- ・六戸町健康講座（2015.2.28）
- ・青森市沖館市民センター講座（2015.4.25）
- ・青森市老人クラブ連合会（2015.8.19）
- ・リレーフォーライフ（2015.9.5）
- ・大野小学校4学年への体操指導（2015.9.17）
- ・甲田中学校「健康集会」（2015.10.18）
- ・大野小学校学習発表会（2015.10.24）
- ・幸畑小学校4学年指導（2015.12.14～15）
- ・老人保険施設「桐紫苑」において指導する。（2016.3.15）

8. 報道・マスコミ関係

- ・JAL機内誌(SKYWARD)見開き3ページ掲載(国内外411万人に読まれている)(2012.11)
- ・テレビ朝日、「マツコ&有吉の怒り新党」の番組において、『新・3大「青森大学・男子新体操部の演技」』として紹介(2012.7.11)
- ・リクルートカレッジマネジメント第176号に新体操部が紹介(2012.9.1)
- ・TBS中居正弘の「金スマ」に2回に渡り出演(共に16万人視聴する)(2012.11.2)(2012.11.16)
- ・TBS「火曜曲」に生出演(2012.12.25)
- ・報道ステーション松岡修造のコーナーで「BLUE」が特集(2013.2.4)
- ・フジテレビ「とくダネ！」世界で活躍する青森大学卒業生が紹介(2013.2.21)
- ・スーパーJチャンネルabaで福島被災地荒井小学校での演技会の模様を特集される(2013.3.14)
- ・フジテレビ「アゲるテレビ」の番組において『青森大学新体操部並びにシルク・デュ・ソレイユで世界ツアー参加の卒業生』を紹介。(2013.5.22)
- ・NHK青森「あつぷるワイド」18:10～にLIVE出演。(2014.11.28)
- ・ABA青森朝日放送「ハッピー」9:35～の番組においてスタジオ・体育館とLIVE出演。(2013.12.7)
- ・ABA青森朝日放送「スーパーJチャンネル」で新体操部員の「シルク・デュ・ソレイユ」オーデションの模様を放送。(2013.12.10)
- ・ATV青森テレビ「おしゃべりハウス」に出演。(2013.12.11)
- ・ABA青森朝日放送「スーパーJチャンネル」の番組においてドイツで開かれた観客20万人を動員した公演の様子を特集。(2014.2.18)
- ・エフエム青森において学生2名とともに知事との対談を収録。(2014.5.26)6/1、7時放送
- ・NHK青森の放送局において全日本学生新体操選手権13連覇報告として出演(2014.9.4)

- ・ Z I P ! F R I D A Y (R A B) において、全日本新体操選手権大会優勝の演技 L I V E 出演をする。(2014. 11. 27)
 - ・ NHK 青森「あつぷるワイド」18:10～に L I V E 出演。(2014. 11. 28)
 - ・ 映画「FLYING BODIES」(新体操部のドキュメンタリー映画)
「心に栄養 蓄え成長」と題する第 1 回こども国際映画祭においてグランプリを受賞する。(琉球新報) (2014. 12)
 - ・ 雑誌「月刊 E X I L E vol. 85」10 万部発行においてスペシャルトークセッションの枠で TETSUYA&USA と対談を行う。(2015. 3. 27) 私の指導法や男子新体操の魅力について掲載された。(2015. 5. 1)
 - ・ 全日本学生新体操選手権大会団体 14 連覇の広告のため知事表敬訪問を行った。(2015. 9. 11)
 - ・ スーパー J チャンネル A B A の中で新体操の舞台「B L U E」の取材を受け放送される。(2015. 12. 11)
 - ・ 東奥日報女子まるが新体操の舞台「B L U E」練習の様子の見学、次の日朝刊に掲載される。(2015. 12. 13)
9. 市民体育祭 50 周年記念「ラジオ体操・みんなの体操会」(2014. 10. 18)
合浦小学校において正しいラジオ体操を学ぶと題し、青森県ラジオ体操連盟理事として参加する。
 10. 東北高等学校・東北ジュニア新体操選手権大会審判長及び研修会
(2014. 11. 21～11. 23)
 11. 「B L U E Vol. 3 藍を舞う」(2015. 1. 24～25)
2 日間 3 公演を行い 3000 人の集客を得た。青森県を代表する「あおり藍」や「こぎん刺し」といった伝統工芸とのコラボにも巡り合い、確実に青森の文化として根付いてきている。
 12. 国宝坂東玉三郎演出の「バラレ」(赤坂アクトシアター) に一ヶ月に及ぶ稽古と公演に出演させる。(2015. 3. 7～3. 15)
 13. 映画「FLYING BODIES」DVD 化 (2015. 3. 18)
2014. 11. 23～24 の両日行われた第 1 回こども国際映画祭 in 沖縄(KIFFO) でグランプリを受賞。そのことも機に DVD 化され販売、レンタルビデオショップにも置かれることになる。
 14. NHK 番組『「E テレ 2355」「E テレ 0655」・すばらしき哉、世界一身(しん)の界』
(2015. 4～放送)
男子新体操の力強さや躍動感、動きのシンクロする気持ち良さに映像と音楽の演出を加えることによって、テレビの前の視聴者にも新鮮の驚きと感動をもたらしたいと依頼を受け第 67 回全日本新体操選手権大会優勝の映像を全国に配信する。
 15. 「ぶるー N E B U T A」(2015. 7. 31、2015. 8. 2～8)
ねぶた祭りの開催期間にあわせ開催。ねぶたの家ワ・ラッセイベントホールにおいて 8 日間青森の美しい春夏秋冬の情景と文化を映像と津軽弁で綴り、時に可憐に、そして猛々しくアクロバットなダンスを伝統楽器とともに体感していただいた。
 16. 「B L U E フェスティバル」(2015. 10. 4)
体験型のイベントとして開催。MC にあべこうじさんを向かえ、午前中に、だし活サロン・子ども体操教室、午後からチーム B L U E 演技披露会を行った。
 17. 「B L U E Vol. 4～綴～」(2016. 1. 23・24)
リンクステーションホール(青森市文化会館)において新体操の舞台を 2 日間 3 公演行い 3500 人の集客を得た。

<社会貢献・演技会>

1. 青森市立野内小学校クラブ活動（ダンス）講師・実技指導（2012・2013.5～10 の月一平均計6回）
2. 2009年度の演技会
青森市インドアオープン（室内ローラースケート）記念のイベント、碓ヶ関小学校「学習発表会」、岩手県滝沢村「新体操フェスタ in たきさわ 2009」、山形県遊佐町「第2回男子新体操演技会 YUZA GALA 2009」、岡山県井原市「第4回井原新体操フェスティバル」、「福島新体操クラブ発表会」
3. 2010年度の演技会
東京 RISING DANCE FESTIVA「UNITED 2」、RISING DANCE FESTIVA「UNITED 3」、舞戸小学校鯉ヶ沢地区合併する小学校4校交流会イベント、岩手県滝沢村「新体操フェスタ in たきさわ 2010」、「第5回井原新体操フェスティバル」、「福島新体操クラブ発表会」
4. 2011年度の演技会
盛岡市スタジオ Danse One「こんなステージ・観たことない」、東京都 RISING DANCE FESTIVA「UNITED 4」、第4回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技、青森市「平成23年度子どものスポーツ活動推進事業」模範演技及び補助役、大学祭特別記念演技会「全日本学生新体操選手権大会10連覇」、弘前市トップアスリート招致支援事業・演技会並びに講習、東京ドームシティ RISING DANCE FESTIVA「UNITED 6」、北上市体育協会主催「KITAKAMI アーティスティックフェスタ 2011」、「福島新体操クラブ発表会」、板橋区立文化会館・東京ジュニア新体操クラブ発表会
5. 2012年度の演技会
第5回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技、「北上アーティスティックフェスタ 2012」、大学祭、「福島新体操クラブ発表会」
6. 2013年度の演技会
福島市荒井小学校、福島会津「華舞翔新体操倶楽部」、第24回「健康まつり」サンワアリーナ、青森中央高校、大学祭「全日本学生新体操選手権大会12連覇記念公演」を開催（996名の観客を動員）、弘前第一中学校、埼玉昌平中学高等学校
7. 2014年度の演技会
第7回青森県民スポーツ・レクリエーション祭、みちのく銀行国道支店120周年記念演技会、弘前中央高校体育館新築記念演技会、第10回井原新体操フェスティバル
8. 2015年度の演技会
第8回青森県民スポーツ・レクリエーション祭、リレーフォーライフ、BLUE フェスティバル、平内町体育協会70周年記念行事、北上市体育協会主催「KITAKAMI アーティスティックフェスタ 2015」、DO 新体操クラブ（北海道）創立20周年記念演技会

氏名 赤坂 道俊 (AKASAKA Michitoshi)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1950 年 5 月 30 日

[履歴]

[学歴]

1988 年 3 月 明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得、満期退学

[学位]

商学修士

[職歴]

1988 年 4 月 青森中央短期大学経営情報学科専任講師

1991 年 4 月 八戸大学商学部専任講師

1992 年 4 月 同大学同学部助教授

1998 年 4 月 同大学同学部教授

2005 年 4 月 青森大学経営学部教授

[所属学会]

日本経営学会、経営史学会、経済理論学会

[教育活動]

[担当科目]

経営学総論 I、同 II、経営史 I、同 II、経営組織論 I、同 II、3 年専門演習、
4 年専門演習 (以上学部)

環境経営論 (大学院。2012 年度まで)

[卒業研究指導]

2008 年卒業研究 : 8 名、2009 年卒業研究 : 9 名、2010 年卒業研究 : 9 名、2011 年卒業
業

研究 : 9 名、2012 年卒業研究 : 10 名

[ゼミ指導]

2008 年ゼミ指導 : 3 年 7 名、4 年 9 名。2009 年ゼミ指導 : 3 年 11 名、4 年 9 名、
2010 年

ゼミ指導 : 3 年 9 名、4 年 16 名、2011 年ゼミ指導 : 3 年 7 名、4 年 11 名。2012 年
ゼミ指導 :

3 年 9 名、4 年 10 名、2013 年ゼミ指導 : 3 年 6 名、4 年 9 名

[教育指導に関する特記事項]

1, 大学院進学者のために、原書講読の補講、専門科目の補講を行った。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) イギリス多国籍企業経営史

(2) イギリス帝国経済史

(3) 地域経済研究

[著書、論文、総説]

1, 赤坂道俊「グローバル化とイギリス多国籍企業のプレゼンス」『青森大学
学術研究会法』Vol.28、No.2、2005.11

2, 赤坂道俊「第二次大戦後ユニリーバの戦略的 M&A と経営統合」『研究紀要』第 31 巻 3 号、2009.2

3, 赤坂道俊「1980 年代中葉、ユニリーバのコア・ビジネス戦略の展開」『研究紀要』第 35 巻 3 号、2013.2

[論説]

1. 赤坂道俊「国際分業と経営戦略」「あおもり経済未知知るべ」〈50〉、『東奥日報』2013 年 5 月 4 日

2. 赤坂道俊「小売業二極化と経営革新」「あおもり経済未知知るべ」〈55〉、『東奥日報』2013 年 6 月 8 日

3. 赤坂道俊「非正規雇用の課題」「あおもり経済未知知るべ」〈60〉、『東奥日報』2013 年 7 月 13 日

4. 赤坂道俊「八食センターの活力」「あおもり経済未知知るべ」〈65〉、『東奥日報』2013 年 8 月 17 日

5. 赤坂道俊「原子力と地域振興」「あおもり経済未知知るべ」〈70〉『東奥日報』2013 年 9

月 21 日

6. 赤坂道俊「TPP 参加と日本農業」「あおもり経済未知知るべ」〈75〉『東奥日報』2013 年

10 月 26 日

7. 赤坂道俊「コーヒーチェーンの躍進」「あおもり経済未知知るべ 〈80〉」『東奥日報』2013

年 11 月 30 日

8. 赤坂道俊「TPP 加盟は青森県農業に深刻な影響を及ぼす」『りんごニュース』（青森県

リンゴ協会）、2014 年 1 月 1 日。

9. 赤坂道俊「中心街活性化の鍵」「あおもり経済未知知るべ 〈85〉」『東奥日報』2014 年

1 月 11 日

10. 赤坂道俊「食の外部への依存」「あおもり経済未知知るべ 〈90〉」『東奥日報』2014 年

2 月 15 日

11. 赤坂道俊「攻勢続く 100 円ショップ」「あおもり経済未知知るべ 〈95〉」『東奥日報』2014

年 3 月 22 日

[学会発表]

赤坂道俊「1980 年代中葉、ユニリーバのコア・ビジネス戦略と M&A の展開」、第三回『経営史学会東北ワークショップ』2010 年 9 月 10 日。

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1, 「新しい小売業の成長と経営革新」, 青森アドバンス・クラブ、2007.9

2, 「新しい小売業の成長と流通業の変化」、カントリー・ジェントルマン・クラブ、2007.11

3, 「経済のグローバル化と私たちの暮らし」オープンカレッジ市民大学、2008.11

4. 講演「新しい小売業の成長と経営革新」まちなかキャンパス／青森大学公開講座、2013.9

5.講演「TPP と行政書士（士業）～TPP は復興に役立つか？」宮城県行政書士界石巻支部。石巻市「大もりや 3 階リボンホール」、平成 26 年1月 24 日。

6.講演「TPP が本県農業に与える影響」青森県りんご協会、平成 26 年冬期りんご講座、2014.1.31、於青森県りんご協会講堂。

[学内各種委員]

2006 年 教務委員、学生募集連絡会委員、入試委員

2007 年 経営学科長、学部入試委員長、留学生支援委員長、資格審査委員

2008 年 経営学科長、学部入試委員長 IT 検討会委員、留学生支援委員長、

資格審査委員

2009 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員

2010 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員

2011 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員

2012 年 学部教務委員、学生募集連絡会委員、

2013 年 学部就職委員、全学就職委員、地域貢献センター委員、留学生就職支援班

[学外各種委員]

青森地方最低賃金審議会委員・会長代理（2008 年 4 月～現在に至る）

独立行政法人 雇用・能力開発機構運営協議会会長（2008 年 4～2010 年 3 月）

青森市ものづくり推進会議委員（2008 年 4～2010 年 3 月）

七大学連携事業（コンソーシアム青森）教育部会委員（2010 年 4～2012 年 3 月）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員、会長（2011 年 10 月～現在に至る）

青森県地域連携型企業家創出事業実行委員会委員（2013 年 4 月～）

氏名 五十嵐則夫 (IGARASHI Norio)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1946 年 12 月 23 日

[履歴]

[学歴]

1981 年 3 月 青山学院大学大学院経済学研究科 経済政策専攻博士課程修了

[学位]

経済学修士

[職歴]

1971 年 4 月 民間企業入社

1975 年 3 月 民間企業退社

1981 年 4 月 日本電子専門学校講師

1991 年 3 月 日本電子専門学校退職

1991 年 4 月 青森大学 専任講師 経営学部経営学科

1992 年 2 月 青森大学 助教授 経営学部経営学科

2002 年 4 月 青森大学 教授 経営学部経営学科

[所属学会]

ロシア・東欧学会、比較経営学会、日本経営学会

[教育活動]

[担当科目] 経済原論、工業経営論、経営分析論、演習

[卒業研究指導]

2012 年卒業研究： 11 名

2013 年卒業研究： 17 名

2014 年度卒業研究： 14 名

[ゼミ指導]

2014 年度： 37 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 分かり易い講義を心がける。特に、板書は丁寧に行う。
2. 毎回、講義の開始前に、前回の講義の復習を行うことにしている。
3. 演習ではゼミ生を小集団に分け、その小集団毎にレポート作成及びその発表を行うように指導している。
4. レポートは前期は手書きを認めるが、後期にはワープロにて書くように指導する。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) ロシアの品質管理法 (及び、ロシアでの科学的管理法)
- (2) 科学的管理について

[著書、論文、総説]

1. 「ロシア連邦での組織体」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2006 年 11 月、Vol.29-2 単著

2. 「ロシア連邦での品質改善策の影響」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2009年2月、Vol.31-3、青森大学創立40周年 青森大学経営学部開設40周年記念特集号、単著
3. 「工場管理機構としての内部請負制度の普及と消滅…日米の比較…」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2010年2月、Vol.32-3、単著
4. 「日本での科学的管理の変容」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2011年7月、Vol.34-1、単著
5. 「科学的管理法の普及」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2012年11月、Vol.35-2、単著
6. 「経営家族主義と科学的管理」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2014年2月、Vol.36-3、単著

[研究費の取得状況]

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. オープンキャンパス 模擬授業 2012年6月16日
2. 青森山田高等学校 大学見学会 2012年7月18日
3. 青森山田高等学校 大学説明会 2012年12月12日

[学内各種委員]

1. 学術研究会
2. 図書委員会

氏名 石川 祥三 (ISHIKAWA, Shozo)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1955 年 7 月 25 日

[履 歴]

[学 歴]

1979 年 3 月 山形大学工学部精密工学科卒業

[学 位]

工学士 1979 年 3 月 山形大学

[職 歴]

1979 年 4 月 山洋電気(株) 入社

1984 年 12 月 伊藤工業(株) 入社

1990 年 4 月 青森短期大学 助手

1992 年 4 月 青森大学 助手 工学部情報システム工学科

1997 年 4 月 青森大学 講師 経営学部産業学科

2004 年 4 月 青森大学 助教授 経営学部ビジネス情報学科

2011 年 4 月 青森大学 教授 経営学部経営学科

[所属学会]

日本情報処理学会 日本情報経営学会

[教育活動]

[担当科目]

数的処理、情報活用論 I、基本情報処理 I、プログラミング I、II、情報の集計・分析

[教育指導に関する特記事項]

平成 26 年度の『IT パスポート試験』合格者は 1 名。最近 5 か年 (H22~H26) における合格実績は 11 名である。

[研究活動]

[研究テーマ]

戦略的イノベーションによる技術経営に関する研究

[研究発表]

[紀要、論文、各種報告書]

石川祥三 「競争的優位実現の技術力とイノベーション」 研究紀要 (青森大・青森短大) 33 巻 3 号 (2011 年 2 月) 1-18 頁

石川祥三 「技術経営 (MOT) における持続的競争力」 研究紀要 (青森大・青森短大) 35 巻 3 号 (2013 年 2 月) 17-34 頁

石川祥三 「異業種企業における競争構造の構築」 研究紀要 (青森大) 36 巻 3 号 (2014 年 2 月) 299-314 頁

[学内各種委員]

学生募集委員会（平成 25 年度～）

企画・運営委員会（平成 14 年度～）

ホームページ委員会（平成 14 年度～）

保守・点検委員会（平成 15 年度～）

[出張講義]

テーマ：面白インターネット（於：青森リバーテクノ 2002 年 8 月）

[計算機運用]

教育用 e-ラーニングサーバの運用・保守担当

氏名 井上 隆 (INOUE Takashi)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1949年11月25日

[履歴]

[学歴]

1974年3月 法政大学経済学部経済学科卒業

1976年3月 早稲田大学大学院商学研究科商学専攻修士課程修了、商学修士

1984年3月 法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻博士後期課程満期退学

[職歴]

1976年4月 東京家政大学付属高等学校非常勤講師（～1980年3月）

1983年4月 法政大学経済学部非常勤講師（～1989年3月）

1987年4月 駒澤大学経済学部非常勤講師（～1988年3月）

1989年4月 青森大学経営学部助教授、1997年4月 同教授

1998年4月 経営学科長（～2002年3月）

2002年4月 経営学部長（～2012年3月）、2013年4月 同教授

[所属学会・団体]

経済理論学会、東北経済学会、東北都市学会、NPO法人ひろだいいりサーチ

[教育活動]

[担当科目]

地域経済論Ⅰ・Ⅱ、外書講読、専門演習(2年・3年・4年)

[ゼミ指導]

2014年度 20名、2015年度 18名、2016年度 30名

[教育指導に関する特記事項]

(1)専門演習(3年)では、専門書(日本経済論)輪読と並行して、随時、『会社情報』の読み方指導や会社・工場見学などを通じて就職意識を醸成し、一定の成果をあげてきた。

(2)専門演習では、学生が企業経営の実際に直接接触する機会を増やすべく様々な取り組みを行っている。平成24～25年度は、青森市中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」・「学生による商店街コンセプト提案調査研究事業」にゼミ生を参画させ成果を上げた。関連事業は平成26年度も継続している。

(3)随時、学外講師による「時事問題学習会」を企画・実施し、学習機会の多様化を図っている。平成24年度は、財務省大臣官房総合政策課長を招聘し「社会保障と税の一体改革」に関する講演会・座談会を開催し好評を得た。25年度以降も、経営学部教員と連携して、学外講師による特別講義に参画している。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1)国土開発政策の変遷と諸問題

(2)地方圏経済一衰退のメカニズムと再生可能性—

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、調査報告書等](過去5ヶ年度分)

1. 共著『人口減少下における地域経済の現状と今後の対応策』、「序 - 地域経済活性化に向けた調査・研究の視点と方法」分担執筆、編集・発行：青森地域経済活性化懇談会・青

- 森商工会議所、2016年3月。[平成27年度 公益財団法人 青森学術文化振興財団助成事業]
2. 共著『「函館酪農公社」移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究—平成26年度 乳の社会文化学術研究報告書—』pp23-32, 第3章「(株)函館酪農公社・移動販売車の社会的役割と機能」分担執筆、NPO法人ひろだいりサーチ 編集・発行、2015. 3.
 3. 「大震災時における八戸圏域の企業行動(2)」『青森県保険医新聞』No.639, 2014.4.1.
 4. 単著『屋台村的空間‘ザ・あおもり’の創出—新たな食等の提供業態調査報告書—』、青森商工会議所発行、2014.3.31
 5. 「大震災時における八戸圏域の企業行動(1)」『青森県保険医新聞』No.638, 2014.3.1.
 6. 「東日本大震災時における企業行動と復旧・復興過程」, 青森大学『研究紀要』第36巻第3号(通巻118号), pp19-39, 2014.2.1.
 7. 「コンパクト化見通す目—佐々木誠造に聞く‘都市経営’—」『東奥日報』2014.1.9.
(書評: 佐々木誠造著『まちづくり・人づくり・意識づくり』2013.10.泰斗舎刊)
 8. 「連携深化の必要性説く」『東奥日報』2013.8.21.
(書評: 佐々木純一郎編著『地域経営の課題解決』2013.2. 同友館刊)
 9. 共著『東日本大震災時における八戸圏域企業の行動』pp3-30. 分担執筆.
NPO法人ひろだいりサーチ編集、あおもり県民政策ネットワーク発行、2013.5.
 10. 「複雑な仕組み平明に-福士隆三著『初心者のための経済読本』北の街社、書評-」
『東奥日報』2010.6.22.

[学会発表・学会活動など]

1. 2015年度 日本フードシステム学会、個別報告：第4会場・第6順、報告論題：「牛乳流通の社会貢献的役割とブランド価値についての一考察—東日本大震災後の青森県、そして函館酪農公社・移動販売車を中心に—」、共同報告者：佐々木純一郎、竹ヶ原公、井上隆、於：東京農業大学世田谷キャンパス、5/30~31.
2. 『経済志林』誌上座談会、テーマ：人と学問。2010.9.19. 於ボアソナードタワー、参加者：増田壽男(法政大総長)、山本健児(九州大大学院)、菅井益郎(國學院大)、柿崎繁(明治大)、井上隆(青森大)、小澤光利(法政大).

[外部研究費等取得状況]

1. 助成機関:(公益財団法人)青森学術文化振興財団、助成金額:1,690(千円)、2015年度、受託組織:青森地域経済活性化懇談会(代表 井上隆)、事務局:青森商工会議所、調査研究主題:「人口減少下における地域経済の現状と今後の対応策の検討」
2. 助成機関:一般社団法人 日本酪農乳業協会(Jミルク)、募集事業:平成26年度「乳の社会文化」学術研究公募、受託者:佐々木純一郎(弘大)、井上隆(青大)、谷口清和(青銀地域社会研究所)、竹ヶ原公(弘大院)、研究課題:「函館酪農公社」移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究、委託金額:1,000千円、調査・研究期間:平成26年4月~平成27年3月
3. 助成機関:青森県商工労働部、調査研究補助事業:青森県むらおこし総合活性化事業、受託者:青森商工会議所・新たな食等提供業態創造調査研究会(座長:井上隆)、調査研究事業名:新たな食等提供業態創造調査・基本構想策定(執筆担当:井上隆)、委託金額:1,540千円、2013年度
4. 助成機関:あおもり県民政策ネットワーク(青森県企画政策部)、委託事業:地域政策研究、受託者:NPO法人ひろだいりサーチ、代表研究者:佐々木純一郎(弘大大学院)、井上隆(青森大)調査研究課題:「東日本大震災における八戸圏域の企業行動調査」、2012年度、委託金額:400,000円、

5. 「新七戸物件・商業環境調査および販売可能額推計」、受託金額：100,000 円、
イオンリテール株式会社開発本部 東北開発部、2010年3月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー、シンポジウム、マスコミ対応など](2009～)

- ・日本経済新聞社 アウガ問題に関わるインタビューへの応答
⇒「青森駅前活性化の顔 破綻」『日本経済新聞』2016. 7. 25.
- ・談話「青森県の貸し工場債権放棄」について、『東奥日報』2016. 2. 20.
- ・講演「函館酪農公社の移動販売車の社会的役割と機能」、NPO法人ひろだいりサーチ 調査研究報告会、十和田市交流プラザ・タワーレ、2016. 2. 28.
関連記事：『東奥日報』2016. 3. 12. 「震災時の牛乳流通検証し問題点指摘」
- ・RAB ニュースリーダー「青森駅整備・アウガ 市の対応に市民は…」2015. 6. 2.
コメンテーター、
- ・講演「函館酪農公社の移動販売車の社会的役割と機能」 2014. 12. 20、
事業：(一般社団法人)Jミルク助成・委託事業、牛乳等移動販売車 調査研究報告会
共催：NPO法人ひろだいりサーチ、弘大大学院地域社会研究科、公立はこだて未来大学
会場：函館市国際水産・海洋総合研究センター
- ・東奥日報社「数字で読むアベノミクスと本県」識者インタビュー、
⇒「(談話) 消費意欲が二極化」、『東奥日報』2014.11.28.
- ・東奥日報社 識者インタビュー、
⇒「青函ツインシティ25年 双子都市は今(1)」、『東奥日報』2014.11. 2.
- ・講演「郊外立地の大学からの学生参画を促す街づくり-中心商店街賑わい創出事業-」、
(独)中小企業基盤整備機構 東北本部 中心市街地活性化協議会支援センター主催
東北地域中心市街地活性化協議会等交流会-コンパクトシティ実現に向けて-
新町キューブ 2014. 10. 2～3
- ・東奥日報社 識者インタビュー⇒「(談話) 消費回復の動きに遅れ」、『東奥日報』2014.
9.30
- ・講話「高速交通体系、新幹線開通、地域づくり」、青森中央高校模擬授業 2014. 8. 28
- ・談話「25年国体招致模索する青森県」『デーリー東北』2014.8.20.
- ・RAB・ニュースリーダー「平川市さらに6市議逮捕」コメンテーター、2014.7.16.
- ・談話「独自の成長戦略加速を」、『東奥日報』2014.7.14.
- ・講演「新たな食等の提供業態創造調査事業および中心商店街賑わい創出事業」、
青森市中心市街地活性化協議会(商工会議所)、2014. 5.
- ・コーディネーター、県高規格道路建設促進期成会・上北横断道路事業促進会議共催「上
北道路開通と地域を考えるシンジポジウム」、六戸町メイプルホール、2013.2.
- ・講演「東日本大震災における八戸圏域企業の行動」、八戸グランドホテル、
あおもり県民政策ネットワーク、平成24年度・調査研究報告会、2013.2.
- ・コーディネーター、青森市主催みなとまちづくり市民フォーラム、ワラッセ、
パネルディスカッション「ウォーターフロント活性化とは」 2011.11.
- ・講演「都市再生・街づくりの課題と方法」、青森大学後援会宮城県支部、2011.7.
- ・座長、東北地方整備局「国道四号七戸バイパス開通」座談会、七戸柏葉館、2011.1.
参加：井上隆、小又勉七戸町長、米内山正義商工会長、久保田一青森事務所長
- ・講演「新幹線開業が地域社会に与える影響について」、オープンカレッジ、2010.11.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、野辺地町教育委員会「野辺地生涯学習大学」
野辺地町立図書館、2010.10.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、修養会、十和田おいらせ荘、2010. 9.
- ・講演「商業統計と地域商業政策」、プラス青い森、2010.5.
青森県統計分析課・平成 22 年度地方統計職員業務研修基礎研修会、

- ・コーディネーター、青森県民政策ネット・研究成果発表会、グランドホテル、2010.3.
- ・基調講演「モデルタウン構想と街づくり」、青森県・青森市共催「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン構想シンポジウム」、ラプラス青い森、2009.11.
- ・講演「東北新幹線新青森駅開業とコンパクトシティの今後」、スピリッツネットワーク研修会、青森市アウガ、2009.9.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、平成21年度・十和田市民大学公開講座、十和田市民文化センター、2009.8.
- ・コーディネーター、国交省青森河川国道事務所・青森県上北県民局・東北風景街道協議会共催フォーラム「上北の街道づくり」、十和田富士屋グランドホール、2009.3.

[学外各種委員など] (過去7ヶ年度分、2009～2015年度、任期終了分を含む)

- ・財務省東北財務局 財務行政モニター
- ・法務省青森地方法務局 事務評価委員会 委員長
- ・国交省東北地方整備局 青森の道づくり懇談会 座長
- ・国交省東北地方整備局 雪みち懇談会 座長
- ・国交省東北地方整備局・青森県県土整備部 道路交通環境安全推進連絡会議 委員
- ・国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境・労働時間改善青森県協議会 会長
- ・(公益社団)日本港湾協会 青森みなとづくり懇談会、副座長
- ・青森県健康福祉部 水道危機管理検討協議会 委員
- ・青森県健康福祉部 公衆浴場入浴料金協議会 委員長
- ・青森県健康福祉部 地域医療再生計画(第三次医療圏)有識者会議 委員
- ・青森県健康福祉部 地域医療再生計画地域選定委員会 委員
- ・青森県健康福祉部 母子家庭等自立支援推進計画検討委員会 委員長
- ・青森県環境生活部 青森県男女共同参画アドバイザー
- ・青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査会 委員
- ・青森県県土整備部・青森市都市整備部 青い森セントラルパークを考える会 会長
- ・青森県県土整備部・青森市都市整備部 青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業審査委員会 委員
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策ネットワーク運営委員会 委員長
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策ネットワーク政策形成専門委員会 委員長
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策研究選考委員会 委員長
- ・青森県上北地域県民局地域連携部 上北の元気結集協議会 顧問
- ・青森県上北地域県民局地域連携部 VIEW上北推進協議会 会長
- ・青森県上北地域県民局 上北食の健康プレミアム便商品認定審査会 会長
- ・青森市 青森市福祉有償運送運営協議会、会長、
- ・青森市 総合都市交通対策協議会 会長
- ・青森市 青い森鉄道活用会議 座長
- ・青森市 中心市街地活性化協議会 副会長
- ・青森市 青森駅周辺整備推進会議 委員
- ・青森市 東北新幹線新青森駅西口立体駐車場整備事業審査委員会 副委員長
- ・青森市 ウォーターフロント活性化検討委員会 委員長
- ・青森市 みなとまちづくりミーティング 座長
- ・青森市 緑の基本計画 策定懇談会、委員長
- ・青森市 冬期バリアフリー計画推進協議会、会長、
- ・七戸町 東北新幹線七戸駅活用プロモーション会議 座長

- ・七戸町 東北新幹線七戸十和田駅舎デザインコンセプト調整会議 委員
- ・外ヶ浜町 (株)津軽エコエネ、非常勤監査役
- ・青森県社会福祉協議会 福祉施設経営改善推進委員会 委員
- ・(公益社団)青森県トラック協会、青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会、委員長
- ・青森商工会議所 新たな食等の提供業態創造調査研究会、会長
- ・青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会、座長
- ・青森商工会議所 まちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループ 座長
- ・(一財法人)青森地域社会研究所、客員研究員
- ・東日本高速道路(株)東北支社 ハイウェイミーティング座長会議 委員
- ・RAB、ニュースレダー、コメンテーター

氏名 江川静英 (EGAWA Shizue)

所属 経営学部

職名 教授

生年月日 1951 年 09 月 02 日

[履歴]

[学歴]

1976 年 3 月 御茶の水女子大学家政学部被服学科服飾美学専攻卒業

[学位]

家政学学士

[職歴]

1976 年 04 月 御茶の水女子大学家政学部被服学科服飾美学研究生

1978 年 03 月 研究修了 研究テーマ 近代服飾における美の意識

1978 年 10 月 青森短期大学非常勤講師

1981 年 04 月 青森大学非常勤講師

1986 年 04 月 青森大学講師

兼青森山田高校非常勤講師(調理科)(1997 年 03 月まで)

1992 年 04 月 青森大学助教授

2006 年 04 月 青森大学教授 現在まで

[所属学会]

日本中国語学会、服飾美学会、国際服飾学会 日本聞一多学会

[教育活動]

[担当科目] 中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

1. 中国語検定試験参加する学生に課外指導

2. 中国文化研究部顧問

中華料理、

中国功夫(香功)

諺から人生観を学ぶ

台湾人の信仰について

台湾人の宗教観(儒教・道教・仏教)

3. 留学生の支援

日本文化交流会の開催

お茶会に留学生を引率

外国人スピーチコンテスト開催に協力、協賛

留学生の学習、生活相談を受け持ち

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 中国少数民族の服飾文化について

2. 台湾の信仰について

3. 中国古代民族服飾について

[著書、論文、総説]

1. E-ラーニング中国語教材再検討作成 青森大学 2006~2014 年

2.世界の民族衣装の事典(分担執筆)中国少数民族 東京堂出版 2006年9月

3.世界民族服飾事典(分担執筆)中国古代民族服飾 悠書館出版予定

[学会発表]

1.第22回国際服飾学会でポスターセッション発表

「一宋代の背子について」 場所:台湾台南市 日時 2006年8月

2.中国雲南省の昆明、大理(白族)、麗江(納西族)現地調査した。20年3月
白族についての成果を発表

3.第23回国際服飾学会でポスターセッション発表

白族の服飾文化と生活環境について

場所:高山国際コンベンションセンター 日時 2008年8月

4.第23回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。日本

5.第24回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。韓国

6.第25回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。台湾

[その他の活動]

1.2013年2月 2012年度第2回外国語教育研究発表会

中国語 E-learning の授業について

2.2013年2月 学生を台湾の大学に訪問し、語学研修と親善交流に引率した

3.2014年2月 2013年度第2回外国語教育研究発表会

海外語学研修報告(学生の感想含む)

[学内各種委員]

学生委員会

国際交流委員会

ハラスメント防止対策委員会

青森大学オープンカレッジ副所長

[学外各種委員]

1.1993年7月 青森市国際交流ボランティア協会会員(現在に至る)

2.1995年9月 国際ソロプチミスト青森会員(現在に至る)

2010年7月 R・セクレタリー

2011年7月 会長エレクト

2012年7月 会長

2013年7月 理事(現在に至る)

4.2001年4月から 2013年3月 幸畑小学校評議員

5.2001年5月から 2012年5月 財団法人21あおもり産業総合支援センター理事

6.2005年7月から 2014年3月 青森県中華総会会長(現在に至る)

7.2006年6月から 2014年3月 国際服飾学会理事(現在に至る)

8.2012年7月から 2014年3月 ウイメンズ青森の会員(現在に至る)。

[地域活動]

1.2010~2012年 年2回財団法人21あおもり産業総合支援センター理事会に出席

2.2010~2012年 年2回幸畑小学校評議員会議に出席

3.2010~2014年 国際ソロプチミスト青森の役員として、国際や地域社会で女性
と女子の生活向上の活動に参加する。(現在に至る)

4.2010年7月 サンファンシスコで開催された第41回国際ソロプチミスト
アメリカ連盟大会に青森クラブ会長・デレゲートとして出席。

5. 2010年から2012年毎年9月開催された国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン研修会（クラブ役員セミナー）に出席。

6. 2012年3月11日岩手県大船渡市『東日本大震災一周年鎮魂と追悼市民のつどい』に台湾からの法師たちと参加し、御経を唱えた。

7. 2013年3月11日森明の星中学・高校が開催した東日本大震災二周年追悼集會に参加し、共同祈願文を朗読した。

8. 2013年4月日本北リジョン大会開催に、サポーターティングクラブ会長担当。

9. 2014年4月日本北リジョン大会(札幌)に参加

[国際交流]

1. 2010年～2013年日華親善協会の活動に青森県華僑總會会長として参加。

2. 2010年7月国際ソロプチミストアメリカ連盟年次大会デレゲートとして参加。

3. 2011年7月から台湾にリンゴの宣伝や観光を推進する活動に協力。(現在に至る)。

[その他]

1. 2010年～2014年国際ソロプチミスト青森の会長・役員としてチャリティーコンサートを主催、奉仕・寄付活動に参加。

2. 2010年～2014年国際交流関係、教育、ビジネス、観光ピーアールの資料や文書など多数翻訳。

氏 名 小川 伸悦 (OGAWA Shinetsu)

所 属 経営学部経営学科

職 種 教授

生年月日 1954年6月4日

[履 歴]

[学 歴]

1977年3月 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業

[学 位]

教育学士

[職 歴]

1979年4月 青森県立八戸北高等学校教諭(1987年3月まで)

1987年4月 青森県立青森工業高等学校教諭(1998年3月まで)

1998年4月 青森県立青森高等学校教諭(2003年3月まで)

2003年4月 青森県立青森東高等学校教諭(2008年3月まで)

2008年4月 青森県立むつ工業高等学校教頭(2010年3月まで)

2010年4月 青森県立弘前実業高等学校教頭(2011年3月まで)

2011年4月 青森県立浪岡高等学校校長(2012年3月まで)

2012年4月 青森県立青森高等学校校長(2015年3月定年退職)

2015年4月 青森大学経営学部経営学科教授

[教育活動]

[担当科目]

教職概論、生徒・進路指導論、特別活動の指導法、
保健体育科教育法Ⅰ・Ⅲ、保健体育理論、教育実習

[教育指導に関する特記事項]

アクティブラーニング(能動的学習)の手法を積極的に取り入れ、学修者の論理的、社会的
能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

[研究活動]

[研究テーマ]

学校教育活動における保健体育教育の在り方

[著書、論文、総説]

『図説・現代高等保健』(共著) 大修館書店

[学内各種委員]

教職課程委員会

氏名 櫛田 豊 (YUTAKA Kushida)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1954 年 4 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1978 年 3 月 早稲田大学商学部卒業

1981 年 3 月 早稲田大学商学研究科博士前期課程 修了

1990 年 3 月 早稲田大学商学研究科博士後期課程、満期退学

[学位]

経済学博士、商学修士

[職歴]

1991 年 4 月 横浜国立大学工学部、非常勤講師

[所属学会]

経済理論学会、社会政策学会、日本協同組合学会

[教育活動]

[担当科目] 経営管理論、スポーツ経営学、スポーツマーケティング、スポーツ産業論、科学方法論演習、3 年演習、4 年演習

[卒業研究指導]

2009 年卒業研究： 13 名

[ゼミ指導]

2009 年 3 年ゼミ指導： 15 名

[教育指導に関する特記事項]

1, ゼミに中国人留学生が数名おり、日中学生交流を深める一環として、中国の最近の経済・文化事情を報告させ、意見交換やディスカッションを行っている。
2, 経済学への数学利用とその成果をゼミ生に認識してもらうために、OR の専門家にゼミに参加していただき、産業連関表、投入産出分析の基本的な仕組みを解説するとともに、ディスカッションを行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) サービス経済の理論的分析

(2) サービス経済の実証的分析

[著書、論文、総説]

「社会的再生産とサービス部門」 日本大学『経済集志』第 77 巻第 4 号、2008、1 月

[学内各種委員]

学生委員、自己点検委員、学内学術研究会委員

氏名沼田郷 (NUMATA Satoshi)

所属経営学部

職名准教授

生年月日1973年6月14日

[履歴]

[学歴]

1997年3月駒澤大学経済学部卒業

1999年3月駒澤大学大学院経済学研究科修士課程修了

2002年3月駒澤大学大学院経済学研究科博士課程満期退学

[学位]

経済学修士

[職歴]

2001年4月 日本大学経済学部経済科学研究所非常勤研究員 (2003年3月まで)

2004年4月 嘉悦学園嘉悦大学非常勤講師

2006年4月 駒澤大学経済学部非常勤講師

2009年4月 青森大学経営学部専任講師

2009年4月 日本大学経経済学部経済科学研究所非常勤研究員 (2011年3月まで)

2012年4月 青森大学経営学部准教授

2012年10月 一般財団法人青森地域社会研究所客員研究員 (2013年2月まで)

2016年4月 青森大学経営学部 教授

2016年4月 青森大学地域貢献センター長

2016年4月 青森大学硬式野球部部長

[所属学会]

日本国際経済学会、多国籍企業学会、アジア市場経済学会

[教育活動]

[担当科目]

専門演習 (3、4年)、国際経済論 (I、II)、企業論 (I、II)

基礎演習、社会と環境 (コーディネーター)

[教育指導に関する特記事項]

2014年1月 平成25年度青森大学地域貢献賞優秀賞受賞

2014年12月 小さな親切運動「実行賞」受賞

2015年1月 青森大学地域貢献賞「奨励賞」受賞沼田チーム

2015年5月 夜店通り振興組合様より感謝状授与 於：ホテルアラスカ

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 東アジア地域における国際分業の課題

(2) 日本および台湾光学産業の発展過程に関する考察

[著書、論文、総説]

1. (共著) 矢部洋三編『日本デジタルカメラ産業の生成と発展』日本経済評論社、2015

- 年、第1章、第5章（なお、第1章は分担執筆）。
2. （共著）矢部洋三、木暮雅夫編『日本カメラ産業の変貌とダイナミズム』日本評論社、2006年、第7章。
 3. （論文）「東アジア地域における貿易と直接投資」『アジア市場経済学会年報』アジア市場経済学会、第11号、2008年。
 4. （論文）「カメラの技術革新」青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』第33巻第3号、2011年。
 5. （論文）「台湾デジタル・スチル・カメラ産業の台頭」日本大学経済学部経済科学研究所『紀要』第42号、2012年3月。
 6. （論文）「台湾企業の台頭と日本企業の役割ーデジタル・スチル・カメラの受託生産を事例として」『研究紀要』青森大学学術研究会、第36巻第1号、2013年7月。
 7. （論文）「受託製造における台湾企業の台頭」『研究紀要』青森大学学術研究会、第36巻第3号、2014年。
 8. （論文）「北東北地域における光学機器産業の発展と課題」『研究紀要』青森大学学術研究会、第38巻第1号、2016年。

【学会発表】

1. 2006年11月11日 国際経済研究会東京部会(於明治大学)
報告「東アジア地域における工業化と国際分業」
2. 2007年7月1日 アジア市場経済学会全国大会（於神奈川大学）
報告「東アジア地域における貿易と直接投資」
3. 2008年6月29日 多国籍企業学会全国大会（於明治大学）
報告「東アジア地域における国際分業の進展と課題」
4. 2009年7月15日 青森大学春季教員研究発表大会（於青森大学）
報告「東アジア地域における国際分業」
5. 2011年11月26日 多国籍企業学会西部部会例会（於阪南大学）
報告「台湾デジタル・スチル・カメラ産業の現状と課題」
6. 2012年7月1日 アジア市場経済学会全国大会（於近畿大学）
報告「デジタル・スチル・カメラ生産における新潮流」
7. 2015年4月25日 アジア経営学会西部部会（於：龍谷大学）
共同報告「台湾光学企業の成長と日本企業」
8. 2015年6月14日 産業学会第55回全国研究会（於：中央大学）
共同報告「諏訪地域における光学技術の定着・浸透と展開」

【研究費の取得状況】

日本大学経済学部経済科学研究所研究助成（共同研究）

2001年4月～2003年3月まで

日本大学経済学部経済科学研究所研究助成（共同研究）

2009年4月～2011年4月まで

日本学術振興会科学研究費（課題番号：26380434）平成26年度基盤研究(C)

研究代表テーマ：日本と台湾における光学産業の成長と連鎖（2014年4月～2017年3月まで）

2015年8月 公益財団法人 青森学術文化振興財団研究助成（2016年3月まで）

研究テーマ：青森県および北東北地域における光学・精密機械産業の現状と課題事業

2016年3月 公益財団法人 青森学術文化振興財団研究助成（2017年3月まで）

研究テーマ：青森県における精密機械・光学産業（企業）の発展プロセス

【その他の活動】

- 2012 年 4 月 東日本大震災による被災高校支援活動（代表顧問）
- 2012 年 9 月 青森大学学園祭パネル展示東日本大震災による被災地の現状（現地調査から見えてきたもの）
- 2012 年 9 月 にぎわい創出事業（青森市商店街活性化事業 2013年2月まで）
- 2013 年 2 月 にぎわい創出事業、調査研究報告会実施（青森国際ホテル）
- 2013 年 9 月 青森大学学園祭パネル展示 にぎわい創出事業の成果と今後の課題
- 2013 年 11 月 沼田ゼミデザインによる「のぼり」完成（青森・夜店通り商店街）
- 2013 年 12 月 夜店通り商店街のホームページに「のぼりに込めた想い」を掲載
http://www.nebuta.co.jp/yomise/shop/aodai_ivent.html
- 2014 年 1 月 平成25 年度青森大学地域貢献賞優秀賞受賞
- 2014 年 1 月 東奥日報朝刊14 面「商店街の活性化を応援したい」沼田チーム特集
- 2014 年 2 月 商店街新聞「どさあ？yOMISE さ」発行（創刊～継続）
- 2014 年 3 月 青森大学・青森市包括的連携協定締結記念第1回青森地域フォーラム
 青森の今と未来を考える。活動報告：「中心商店街にぎわい創出」
- 2014 年 9 月 東奥日報朝刊「岩手・高田高校に青大生が義援金」
 「東日本大震災による被災高校支援活動として」
- 2014 年 9 月 大学生観光まちづくりコンテスト（本選出場）於：青森県立美術館
 「青い国からのおくりものーあおもりヒバを使ったおもちゃづくり」
- 2014 年 10 月 青森大学学園祭パネル展示沼田ゼミ
- 2014 年 10 月 ASEM主催観光を学ぶタイの大学生と青森大学学生との交流会 発表
- 2014年12月 小さな親切運動実行賞受賞 沼田チーム「東日本大震災による被災高校支援活動」
- 2014年12月 まちなかキャンパス講師 「青森市中心商店街の活性化に取り組む本学学生の軌跡」
- 2015年11月 青森市まちなかフィールドスタディー助成金事業採択
- 2015年 2 月 めがせ鍋横綱！ まちなか巡業開催 於：新町キューブ
- 2016 年 2 月 第3回 青森地域フォーラム
 活動報告：中心商店街活性化活動
 研究報告：「青森県における光学・精密機械産業の現状と課題」
- 2016 年 4 月 青森大学地域貢献賞 優秀賞
 【学内各種委員】
 地域貢献センター、教学改革タスクフォース、学習支援センター
 【学外各種委員】
 平成21 年 9 月 1 日～平成22 年 3 月 31 日まで
 独立行政法人雇用・能力開発機構青森センター
 民間教育訓練期間等による離転職者訓練の実施に関わる企画書評価委員会委員
 平成22 年 3 月 1 日～平成23 年 3 月 31 日まで
 独立行政法人雇用・能力開発機構青森センター
 委託訓練の委託先及び訓練科の選定に係る委託訓練委員会委員
 平成22 年 11 月 15 日～平成24 年 11 月 14 日まで
 青森市公共事業再評価審議委員会委員
 平成24 年 11 月 14 日～平成26 年 11 月 13 日まで
 青森市社会資本整備評価委員会委員
 【その他】
 2010 年 6 月 青森大学オープンカレッジ講師（テーマ：東アジア経済の光と影）

2011年3月9日〈寄稿〉東奥日報夕刊5面教育に新聞を実践者リレーエッセー執筆。

2011年3月～〈連載〉東奥日報ニュースカアップ（隔週連載中）

2013年4月27日ATV 青森テレビ「教えて知事」に出演（青森県知事と対談）

2013年11月青森大学オープンカレッジ講師（テーマ：日本企業の技術追跡過程）

2013年12月21日青森大学冬季教職員研修会地域貢献活動に関する事例報告「中心商店街にぎわい創出」

2015年10月 財務省東北財務局財務行政モニター（2017年9月まで）

氏名 吉川 昌則 (YOSHIKAWA Masanori)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

[履歴]

[学歴]

1989年 3月 日本体育大学体育学部社会体育学科卒業

[学位]

体育学士

[職歴]

1998年 4月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004年 4月 青森大学社会学部社会学科講師

2007年 4月 青森大学社会学部社会学科准教授

2010年 4月 青森大学経営学部経営学科准教授

2013年 4月 青森大学経営学部経営学科教授

[所属学会]

日本体育学会, 日本スキー学会, 日本スポーツ心理学会, 日本ソフトボール学会

[教育活動]

[担当科目]

体育実技 A・B, スポーツ社会学, スポーツ指導論, 体育実習(アルペンスキー), 保健体育科教育法 IV, シーズンスポーツ A・B, 体育方法学(上・中・下), スキーツアー実習 I・II, 社会と環境

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 学生への個別指導をオフィスアワーとして研究室にて行っている.
- 2, 体育実技においては、主体的な行動がどのようなオーガナイズを心がけて実施している.
- 3, 2008年度でサッカー部部長, 監督として学生指導を行っていた.

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 生涯学習を意識した体育実技カリキュラムの工夫
- (2) アスキーの技術カテゴリーの解明とそのための指導方法論
- (3) アスキーの技術における加速効果
- (4) 人競技におけるパーソナルスペース

[著書, 論文, 総説]

- 1, 「スキー技術教習会に参加して(コラム), 日本スキー学会誌第 18 巻, 2008.
- 2, 「スキーおける谷周りの局面についての一考察:指導方法とその重要性の視点から」研究紀要 32.2, 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2009.
- 3, 「スキーおける谷回り部分を重視した指導方法」研究紀要 33.2, 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2010.
- 4, 「スキー期おける指導方法論」研究紀要 34.1, 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2011.
- 5, 「スキー研究の-」における人スキーの足かりとして」, 研究紀要 35.1, 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2012.
- 6, 「スキーの取り付け位置が用スキー板の操作性に及ぼす影響に関する一考察(2)」, 研究紀要 35.3, 青森大学・青森短期大学学術研究会

- 会, 2013.
- 7, 「□□□□□□□□□□□の取り付け位□が□□□□用スキー板の操作性に及ぼす影響に関する一考察□, □スキー研究□10, 日本スキー学会, 2013.
 - 8, 「日□□お□□□□□□□□□□普及に関する一考察□, □研究紀要□36.3, 青森大学学術研究会, 2014.
 - 9, 「外□□□の押しずらし□作を強調し□□□□□□□□指導方法の効果について一初級・中級者指導の事例□ら一□□研究要綱□37.2, 青森大学学術研究会, 2014.
 - 10, Measurement of the Distance at which a Defender Feels Pressure in One-on-One Situations - the Relation with the Theory of the Personal Space -, "Football Science", Vol.12, Japanese Society of Science and Football, 2015.
 - 11, 「小型力センサを用いたスキー用雪面反力計測システムの開発に関する研究（共著）, □スキー研究□12-1, 日本スキー学会, 2015.

[その他の活動]

[公開講座□講演□セミナー]

甲田幼稚園スキー教室主任講師(2006 年度□現在)

[学内各種委員]

入試選抜委員, 体育部会

[学外各種委員]

日本体育学会第 57 回大会実行委員(2006 年度)

東北地区大学サッカー連盟総務部副部長, □律□□エア□□一部副部長
(2007 年度 □現在)

日本体育学会東北支部監事(2009 年度□2010 年度)

日本スキー学会理事(2010 年 3 月□現在)

日本スキー学会第 25 回大会実行委員長

氏名 石塚 ゆかり (Ishizuka Yukari)

所属 経営学部経営学科

職名 准教授

[履歴]

[学歴]

1999年3月 愛知淑徳大学文学部国文学科卒業

2001年3月 愛知淑徳大学大学院コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻博士前期課程修了

2008年2月 韓国中央大学校大学院日語日文学科言語学専攻博士後期課程修了

[学位]

1999年3月 学士(文学) [淑徳大学]

2001年3月 修士(学術) [淑徳大学]

2008年2月 文学博士 [韓国中央大学校]

[職歴]

2001年4月 青森明の星短期大学現代コミュニケーション学科講師

2005年3月 韓国カトリック大学校言語文化学部日語日本文化専攻講師

2008年4月 青森大学経営学部経営学科講師

2013年4月 青森大学経営学部経営学科准教授

[所属学会]

社会言語科学会、日本語教育学会、日本語学会、言語学会、日本韓国語教育学会、韓国日本文化学会、韓国日語日文学会、韓国日本語学会

[教育活動]

[担当科目]

言語学、臨床コミュニケーション学演習、韓国語ⅠⅡ、実用日本語ⅠⅡ、日本語会話AB、キャリアデザインⅠⅡ、プロジェクト演習ⅠⅡ

[教育指導に関する特記事項]

1. 日本語と韓国語の対照研究を行うため、年に数回韓国へ出かけ、その成果を学会で発表するとともに、教材開発等に活かしている。
2. 東北地方を中心に外国人への日本語支援、論理的な考え方や話し方、円滑な人間関係作り、ことばとコミュニケーション等に関する研修や講演活動を展開している。
3. 地域の韓国語講座や韓国に関する様々なイベントを通し、青森とソウルの交流の活性化に寄与している。
4. 留学生が日本人学生や地域の人々と交流できる機会を提供している。

5. 学生と地域の人々をつなぐワールドカフェ等のイベントを開催し、総合的な学習の場を提供する。

6. 学生主体のプロジェクトチームを立ち上げ、学生ならではの発想を生かした地域貢献活動を支援している。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 日韓の苦情とクレームに関する社会言語学研究（科学研究費助成事業）
2. 医療現場におけるコミュニケーションに関する研究
3. 日本語、中国語、韓国語の待遇表現、配慮行動に関する研究

[著書、論文、総説]

[論文]

1. 日本人と韓国人の伝聞行動に関する一考察－伝え手の心的負担度を中心に、日語日文学研究 62 集 1 号、韓国日語日文学会、pp.115-134、2007 年 8 月
2. 伝聞行動に関する日韓対照研究－伝え手の配慮意識に注目して、日本文化学報 34 集、韓国日本文化学会、pp.199-218、2007 年 8 月
3. 伝聞行動と日本語教育－「伝聞」と「引用」の違いを中心に、日本研究 23 集、中央大学校日本研究所、pp.29-51、2007 年 8 月
4. 日韓の伝聞行動に関する社会言語学的研究、中央大学校大学院・博士論文、2008 年 2 月
5. 意見文における意見表明と反論提示－日中韓大学生の日本語作文を分析して、日本語教育方法研究会誌、Vol.16、No.2、pp.38-39
6. 日本語談話における伝聞と引用－伝達内容および親疎・上下関係によるバリエーション、青森大学研究紀要第 34 巻第 1 号 pp.39-63、2011 年 7 月
7. 言語行動としての配慮に関する日韓対照研究－聞き伝え場面における 3 者間の人間関係に注目して、日本語学研究 31 集、韓国日本語学会、pp.291-311、2011 年 9 月
8. 韓国語の聞き伝え談話に関する一考察－韓国語母語話者による文末形式の切り替え、韓国語教育研究第 2 号、日本韓国語教育学会、pp.137-153、2012 年 9 月
9. 接客場面における日本語の不満表明に関する一考察－母語話者と非母語話者の比較から－、青森大学研究紀要第 36 巻第 3 号、青森大学学術研究会、pp.41-57、2014、2 月
10. 日韓の苦情行動に関する比較研究－不快感情と個人特性の影響に注目して－、青森大学附属総合研究所紀要第 16 巻 2 号、2015、3 月

[教材執筆（共著）]

1. 日本語能力試験模擬問題集試験 3 級大捜査 I、大新書局、2004
2. 日本語能力試験模擬問題集試験 4 級大捜査 I、大新書局、2004
3. Diet Japanese 初級 1、時事日本語社、2014
4. Diet Japanese 初級 2、時事日本語社、2014

[学会発表]

1. 日韓の伝聞場面における言語形式に関する一考察、韓国日本学会、第 74 回国際学術大会、2007、2 月
2. 日韓の聞き手および話題の人物に対する配慮表現－大学生の聞き伝え行動に見る働きかけ方と敬語使用を中心に、韓国日語日文学会夏季学術発表大会、2009、6 月

3. 意見文における意見表明と反論提示-日中韓大学生の日本語作文を分析して、第33回日本語教育方法研究会、2009、9月
4. 三者間コミュニケーションの日韓対照研究-聞き伝え場面における伝え手の立場に注目して、第21回韓国日本語学会学術発表大会、2010、3月
5. 日本語と韓国語の配慮表現に関する一考察-聞き伝え場面における聞き手との親疎関係に注目して、韓国日本語学会第23回国際学術発表会、2011、11月
6. 韓国語談話における聞き伝えとその習得-文末形式を中心に-日本韓国語教育学会第2回学術大会、2011年11月
7. 医療現場における不満表明ストラテジーの日韓比較、第30回韓国日本語学会秋季大会、2014年9月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 日本語論、愛知淑徳大学集中講義、2009、2月
- 冬季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2009、3月
- 日本語学、愛知淑徳大学集中講義、2009、8月
- 夏季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2009、9月
- ことばとコミュニケーション、みんゆう薬品社内研修、2009、12月
- 日本語論、愛知淑徳大学集中講義、2010、2月
- 冬季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2010、3月
- 韓国語講座中級会話Ⅰ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2010、9月～11月
- 日本語文法のしくみ-日本語を客観的に分析する力を養うために、青森県国際交流協会第1回日本語ボランティア育成セミナー、2010年11月
- 待遇表現のしくみ-日本語を客観的に分析する力を養うために、青森県国際交流協会第2回日本語ボランティア育成セミナー、2010、12月
- 話が伝わるシステム-よりよいコミュニケーションを実践するために、青森県男女雇用共同参画センターオープンカレッジ in 黒石、2010年12月
- 韓国語講座中級会話Ⅱ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2011年4月～6月
- 韓国語講座中級会話Ⅲ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2011年9月～11月
- コミュニケーション力を磨く-人と人をつなぐ日本語の使い方、青森大学オープンカレッジ市民大学、2011年11月
- 日本語教育ボランティア養成講座「中上級学習者の知的好奇心を満たす工夫」青森県国際交流協会、2012年1月
- 韓国語講座中級会話Ⅳ、在日本大韓民国民団青森地方本部、2012年4月～6月
- 外国語としての日本語、黒石ロータリークラブ定例会講和、2012年5月
- 男・女が輝くカダール講座傾聴のススメ、青森市男女共同参画プラザ・カダール、2012年7月(2日間)
- 共感力、あおもり出会いサポートセンター(青森、弘前、八戸会場にて全3回)
2012年7月
- 韓国語講座中級会話Ⅴ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2013年9月～11月
- あおもりウィメンズアカデミー講座「論理的思考で話すチカラを身につける」青森県男女共同参画センター、2013年9月
- 黒石市次世代リーダー育成講座、黒石市産業会館、2013年10月(2日間)
- 心を開く聴き方と伝え方、みんゆう薬品新入社員研修、2014年、3月
- 韓国語講座中級会話Ⅵ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2014年4月～11月

あおもりウィメンズアカデミー講座「論理的思考で話すチカラを身につける」青森県男女
共同参画センター、2014年9月
コミュニケーションスキルを磨く、みんゆう薬品新入社員研修、2015年、3月

[学内各種委員]

教務委員会、留学生総合支援局、学習支援センター

[学外各種委員]

韓国日本語学会理事

話してみよう韓国語青森大会、予選審査委員、2014、11月

話してみよう韓国語青森大会、本選審査委員、2014、12月

NPO 法人あおもりコリアネット理事

NPO 法人あおもりハングルサービス理事

氏名 岩淵 護 (Iwabuchi Mamoru)

所 属 経営学部

職 種 准教授

生年月日 1972年 1月 12日

[履 歴]

[学 歴]

1999年 3月 桜美林大学経済部 卒業

2001年 3月 駒澤大学大学院経営学研究科専攻修士課程 修了

2004年 3月 駒澤大学大学院経営学研究科専攻博士後期課程 満期退学

[学 位]

経営学修士

[職 歴]

2001年 10月～ 2002年 3月 学校 法人国際理工専門学校 情報処理科 非常勤講師
(システムアドミネーター対策授業 担当)

2004年 7月～ 2006年 3月 長岡技術科学大工部 非常勤講師
(企業論特殊講義担当)

2005年 4月～ 2008年 3月 敬愛大学 経済学部 非常勤講師
(販売管理論、経営情報論担当)

2008年 4月～ 2009年 6月 駒澤大学 経営学部 非常勤講師
(情報処理A、B 担当)

2008年 4月～ 2009年 3月 創価大学 経営学部 非常勤講師
(生産管理論、工業経営論担当)

2009年 4月 青森大学経営部講師
(経営戦略論 I/II、経営情報論 I/II、環境経営論、生産管理論・品質管理論：技術経営論 I/II、
専門演習 III・IV、経営基礎演習：1年)

2009年 4月～ 2009年 6月 駒澤大学 経営学部 非常勤講師
(現代商業論 担当)

2010年 4月～ 2016年 8月現在 八戸工業大学 非常勤講師
(経営情報論担当)

2015年 4月～ 2016年 3月 青森公立大学 非常勤講師
(グローバル経営論、経営戦略論 I 担当)

2016年 9月～2017年 3月 青森公立大学 非常勤講師
(経営特殊授業 I 担当)

[所属学会]

日本情報経営学会、工業経営研究学会、組織学会、日本経営学会、日本経営行動科学学会、
経営戦略学会、国際環境マネジメント学会、アジア市場経済学会、日本労務学会、地域経
営学会、日本コンベンション学会

[担当科目]

経営情報論Ⅰ /Ⅱ、経営戦略論Ⅰ /Ⅱ、専門演習Ⅲ・Ⅳ、経営基礎演習(1年)

[卒業研究指導]

2009年卒業研究：8名

2010年卒業研究：8名(2名が留学生)

2011年卒業研究：9名(1名が留学生)

2012年卒業研究：16名(5名が留学生)

2013年卒業研究：11名

2014年卒業研究：9名

2015年卒業研究：9名

2016年卒業研究：8名

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 経営戦略と経営組織の理論研究(経営情報システムとの関連性も含む)

(2) 技術経営、環境経営、国際経営より捉えた価値の統合過程、組織能力と中心的専門能力の流通過程ならびにイノベーション事象の考察

(3) 企業システムの経済学からみた経済学的ネットワーク事象の考察

(取引費用理論、プリンシパル－エージェント理論、プロパティ・ライツ理論にもとづいた取引費用、調整費用、情報費用を節約する定性分析フレームワーク)

(4) 技術経営(生産管理、品質管理を含むオペレーション戦略)、環境問題・企業倫理(共通価値戦略)の視点より日本のものづくりや日系企業による国際経営の考察を行う。また地域とネットワークという概念を取り入れることで、国内においては青森クリスタルバレイ構想を中心とした産業集積(商業集積を含む)の失敗事例から、国外では東南アジア(CLMV諸国)ならびに南アジアにおける日系企業のクラスター化戦略の事例調査を行う

(5) 地域創生を地域の問題解決の視点より捉える考察

地域を単位として捉えたグローバルネットワークおよびグローバル組織の研究。これに国内外問わずに地域を単位としたグローバルの視点、ヒエラルヒー組織と非ヒエラルヒー組織の両立を図るためのフラクタル組織の視点を加味することで、産業クラスター化のプロセス考察に応用している。なおこの研究については平成27年度より「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究(基盤研究C)」としてプロジェクト展開されている。

[著書、論文、総説]

1. 「中小企業白書における企業間関係に対する一つの理論的接近」『言語・人文科学論集』(長岡技術科学大学), 第19号, 43-57頁, 2005年。

2. 「電子市場の方向性と制度体系が及ぼす影響－脱モール時代の方向性と理論的枠組み－」『経営学部研究紀要』(駒澤大学), 第38号, 57-112頁, 2009年。

3. 「情報システムの変遷からみた2つの組織観－Barnard, C.I.とSimon, H.A.の貢献－」『研究紀要』(青森大学・短期大学学術研究会), 第32巻－第2号, 35-64頁, 2009年。

4. 「産業誘致政策と企業戦略の方向性の乖離－資源活用の側面より捉えた青森クリスタルバレイ構想－」『経営学論集リーマン・ショック後の企業経営と経営学』(日本経営学会編), 第82集, 172-173頁, 2012年。

5. 「ミャンマー見聞録ー潜在的な成長可能性（伸び代）を探す旅を終えて」『グローバリゼーション研究』（工業経営研究学会グローバリゼーション研究分科会編），第10集，2頁，2013年。
6. 「マレーシアにおける産業政策と日系企業による戦略の方向性ー自動車産業における政策と日系企業によるー考察ー」『グローバリゼーション研究』（工業経営研究学会グローバリゼーション研究分科会編），第12-1集，47-72頁，2015年。

[学会発表]

1. 「電子デバイス産業の戦略的課題ー内外棲み分けのためのビジネス・モデルの構築に向けた考察ー」、日本経営学会第85回全国大会、2011年9月。
2. 「ASEANネットワーク構築と日本のモノづくりー日系製造業における製造観の変化についての一考察」、工業経営研究学会グローバリゼーション研究分科会ベトナム・カンボジア視察報告会、2012年5月。
3. 「ASEANネットワーク構築と日本のモノづくりー日本製造業における持続的成長の可能性と課題の一考察」、アジア市場経済学会東部部会研究報告会、2012年11月。
4. 「地域経済のハブ化とイスラム経済圏ネットワーク形成の一考察ーマレーシア，トルコの自動車メーカより捉えた産業政策と市場特性ー」、工業経営研究学会グローバリゼーション研究分科会トルコ・ドバイ視察報告会、2013年6月。
5. 「マレーシアにおける産業政策と日系企業による戦略の方向性ー自動車産業における政策と日系企業による現地経営の一考察ー」、アジア市場経済学会第17回全国大会、2013年6月。
6. 「ダイバーシティ・マネジメントより捉える日系企業の労務管理ー潜在的な成長可能性から捉えたミャンマーとマレーシアの制度比較と日系企業による経営戦略の方向性にもとづいた多様性管理についての一考察」、日本労務学会東北部会研究報告会、2013年11月。
7. 「バーナード＝サイモン理論の貢献と取引コスト理論の学際的借用ー情報技術の活用にもとづいた協働システム分析への応用ー」、日本経営学会東北部会報告、2014年12月。
8. 「地域経営の今日的課題ークラスターネットワーク形成と地域活性化」、地域経営学会第4回研究会報告、2015年4月。
9. 「東南アジア進出より捉えた政策とネットワークーグローバル統合・ローカル適応の論理から捉えたネットワーク戦略」、工業経営研究学会グローバリゼーション分科会タイ・ラオス視察報告会、2015年7月。
10. 「アウトバウンドにもとづいた地域価値・フィールドワークの手法と問題提起」、地域経営学会第13回研究会研究フォーラム 地域経営の実践的検討～青森県大鰐町『まち・ひと・しごと創生大鰐町総合戦略』策定をうけて、2016年5月。
11. 「東南アジア・南アジアにおけるBOPとネットワークー制度とリンケージからとらえた戦略システムの考察」、工業経営研究学会グローバリゼーション研究分科会バンラデシュ視察報告会、2016年6月。
12. 「参与考察にもとづくフィールドワークから導かれる三つの視点ー情報整理・解決手法の再発見、実施と計画のためのフレームワーク」、地域経営学会第14回研究会（青森・むつ市大会）報告、2016年7月。
13. 「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究」、第8回マクロ政策分析研究会（青森大学）報告、2016年8月。

[学内各種委員]

[学内各種委員]

就職支援チーム委員（平成28年）、学術委員（平成27年から紀要編集長）、教学タスクフォース委員（平成28年）

氏名 木村雅大 (KIMURA masahiro)

所属 経営学部経営学科

職名 准教授

生年月日 1976 年 3 月 29 日

[履歴]

[学歴]

2003 年 3 月 桜美林大学大学院国際学研究科 大学アドミニストレーション専攻
修了

[学位]

国際学修士

[職歴]

2001 年 4 月 青森山田高等学校通信制課程東京校

2003 年 4 月 青森大学経営学部講師

2007 年 4 月 青森大学経営学部准教授

2008 年 4 月 青森大学学生部長

2010 年 4 月 青森大学入試広報局長

2011 年 11 月 学校法人青森山田学園理事長代行

[所属学会]

日本経営情報学会、日本教育方法学会、日本余暇学会

[教育活動]

[担当科目]

一般教養演習 (経営学部、社会学部)、生徒・進路指導論、コンピュータリテラシー

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2006 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2007 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2008 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2009 年 一般教養演習 (経営学部)、一般教養演習 (社会学部)

[教育指導に関する特記事項]

1, 教職課程における「生徒・進路指導」において、より実践的なスキルを身につけるために、教育現場見学を取り入れた授業を行っている。

2, コンピュータリテラシーにおいては一方的な講義にならないよう、学生に実際に作成させたファイルをサーバーに保存させ、それをチェックするという方法をとっている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 大学における学生指導のあり方に関する研究

(2) 大学通信教育の展望に関する研究

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

青森市におけるスペシャルオリンピックスの活動紹介

氏名 中村 和彦 (NAKAMURA Kazuhiko)

所属 経営学部 経営学科

職名 准教授

生年月日 1972年1月30日

[履歴]

[学歴]

1996年3月 明治学院大学経済学部商学科卒業

1999年3月 明治学院大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程修了

2003年3月 名古屋学院大学大学院経済経営研究科経営政策専攻博士後期課程 単位取得満期退学

[学位]

経営学修士

[職歴]

2001年4月～2003年3月 名古屋学院大学大学院 ティーチングアシスタント

2003年4月～2006年3月 名古屋学院大学 商学部 非常勤講師 (「マーケティング論」「マーケティング・マネジメント論」「商品政策論」「ブランド戦略論」「ブランド論」を担当)

2006年4月～2010年3月 ノースアジア大学 (旧秋田経済法科大学) 経済学部 専任講師 (「流通システム論Ⅰ・Ⅱ」「マーケティング・マネジメント論」「マーケティング・リサーチ論」「販売士受験講座」「ゼミナール」を担当)

同大学 法学部 兼任講師 (「観光産業論」を担当)

同法人 秋田栄養短期大学 兼任講師 (「消費経済論」を担当)

2010年4月 青森大学経営学部経営学科講師

2012年4月 青森大学経営学部経営学科准教授

[所属学会]

日本商業学会、日本経営学会、日本消費者教育学会、経営哲学学会、アジア市場経済学会、地域経営学会

[教育活動]

[担当科目] (平成26年度)

マーケティング論Ⅰ、マーケティング論Ⅱ、流通システム論Ⅰ、流通システム論Ⅱ、プロジェクト演習、3年専門ゼミナール、4年専門ゼミナール、経営学演習

2012年卒業研究：11名

2013年卒業研究：6名

2014年卒業研究：10人

2015年卒業研究：7名

2016年卒業研究：12名

[ゼミ指導]

平成25年度：2年、3年、4年で32名

平成26年度：3年、4年で19名

平成27年度：3年、4年で19名

平成28年度：2年、3年、4年で38名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 講義の主教材(テキスト)を補完するべく、毎回、統計的資料やパワーポイントによるスライド図など副教材を作成・配布して学生の興味を誘っている。
また時には、より臨場感を高めるために、DVD(理論を裏づけるケース等)を該当する箇所と関連づけて使用に供させて貰っている。
- 2, 講義とは別に、夏のゼミ指導等、補講を行った。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) ブランド・マネジメント
- (2) 流通経営
- (3) 消費者問題
- (4) 蒐集消費
- (5) 観光マーケティング

[著書、論文、総説]

- 「日産ブランド戦略に関する一考察」『経済論集』(秋田経済法科大学総合研究センター経済研究所) 第2号、pp.73-95. 2007年3月
- 「ネーミングライツに関する一考察」『経済論集』(ノースアジア大学総合研究センター経済研究所) 第5号、pp.1-15. 2008年10月
- 「消費者庁と消費者問題」『経済論集』(ノースアジア大学総合研究センター経済研究所)第7号、pp.15-28. 2009年12月
- 「地域ブランドと伝統野菜」『国際観光研究』(ノースアジア大学総合研究センター国際観光研究所) 第3号、pp.115-126. 2009年12月
- 「小売業の福袋と消費者購買行動」『研究紀要』(青森大学・青森短期大学 学術研究会) 第34巻第2号、pp.47-68. 2011年2月
- 「レコード・レーベルの変遷①～レーベルのブランド価値とM&Aを中心として～」『研究紀要』(青森大学・青森短期大学 学術研究会)第34巻第3号、pp.179-216.2012年2月
- 「レコード・レーベルの変遷②」『研究紀要』(青森大学・青森短期大学 学術研究会)第34巻第3号、pp.37-140.2012年7月
- 『未来を切り拓くビジネス・チャレンジ・ノート』(青森県高等学校教育研究会商業部会・青森県高等学校商業教育研究会編)、第1章第2節、第3章第2節を担当(執筆・監修) 2013年3月
- 「青森ブランド牛統一」(朝日新聞2014年10月掲載)
- 「食品偽装に関する一考察」『研究紀要』(青森大学学術研究会)第37巻第3号、pp.31-48.2014年2月
- 『現代企業と情報システム』、國島弘行編、学文社、2016年秋(発刊予定)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

- 2013年12月 「観光行政のイノベーション～台湾と青森市の観光振興のために～(中国文化大学・青森公立大学・青森大学)」パネリスト(於:ブラックボックス)
- 2014年2月 「ブランド・マネジメント」公開講座(青森商業高校)
- 2014年7月 大学見学会 模擬授業(青森大学)
- 2014年7月 「ブランド」高大連携公開講座(県内4つの商業高校)
- 2014年11月 高大連携推進協議会(於:アップルパレス青森)

2014年12月 高大連携「研究発表大会」(於：青森商業高校)
2015年2月 青森刑務所制作 津軽塗印鑑 販売促進に関する公開プレゼンテーション(於：青森大学)
2016年3月 「[広報ひらない](3月号)掲載 p.4
2015年3月 「小売業の福袋について」公開講座(於：青森中央高校)
2016年4月 「東奥日報」掲載 2016年4月1日付
2014年4月 ボランティア演奏会 於：障害者支援施設 津麦園
2016年4月 「青森県中小企業家同友会 第19回定時総会・講演会」於：アベスト青森
2016年6月 「平成28年度 起業家講演会」会議 於：青森県商工労働部・地域産業課
2016年6月 平成28年度「パテント活用学生人材育成事業」(富士通株式会社 監修)キックオフ会 於：新町キューブ
2016年7月 「ブランド 公開授業(於：五所川原第一高等学校)

[学内各種委員](平成28年度)

学生募集タスクフォース委員、自己点検評価・認証評価対策委員、研究ブランディング委員、学術研究会学生研究発表委員、高大連携推進委員、就職支援

氏名 堀籠 崇 (HORIGOME Takashi)

所属 経営学部

職種 准教授

生年月日 1976年11月14日

[履 歴]

[学 歴]

2001年3月 立命館大学経済学部経済学科 卒業

2004年3月 東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程 修了

2009年3月 東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程 修了

[学 位]

博士(経営学) 東北大学

[職 歴]

2009年4月 東北大学大学院経済学研究科 博士研究員(2014年3月まで)

2011年9月 東北大学大学院経済学研究科研究戦略推進センター

プロジェクト研究員(2012年3月まで)

2013年4月 学校法人北杜学園法人本部事業推進部 職員(2014年3月まで)

2014年4月 青森大学経営学部 准教授(現在に至る)

[受 賞]

2009年3月 財団法人経和会記念財団 平成20年度経和会記念財団優秀論文賞

[所属学会]

医療経済学会 日本医療経済学会 日本経営学会 経営学史学会 国際経営文化学会 地域経営学会

[教育活動]

[担当科目]

経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経営技術論Ⅰ・Ⅱ 経営統計学Ⅰ・Ⅱ 経営基礎演習 経営学演習 プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ ICTマネジメントとビジネスシステム 地域貢献プランニング

[卒業研究指導]

該当なし

[ゼミ指導]

2014年度 基礎演習(17名)

地域貢献基礎演習(21名)

科学方法論演習(14名)

2015年度 経営基礎演習(19名)

科学方法論演習(13名)

2016年度 経営基礎演習(20名)

経営学演習(15名)

[教育指導に関する特記事項]

1・2年生を主体としたゼミにおいては、3・4年生で履修する、専門ゼミへの円滑な接続のために、基礎的な研究・学習能力の修得を目指している。したがって、データ収集・文献検索方法、文書作成方法、文章読解についてのレクチャーを中心とした系統的学習と、学生のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成を視野に入れたPBLとの、バランスに留意した教育指導をおこなっている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 医療法人立病院におけるガバナンスと意思決定に関する研究
2. 日本型医療システム形成の歴史的展開に関する研究

[著書、論文、総説]

1. (単著)「医療法人制度の法制度的側面に関する史的考察」『日本医療経済学会会報』日本医療経済学会, 25巻1号, 2006年2月, pp. 1-36.
2. (単著)「GHQによる占領期医療制度改革に関する史的考察-医学教育制度・病院管理制度を中心として-」『医療経済研究』医療経済学会, 20巻1号, 2008年6月, pp. 35-48.
3. (単著)「占領期医療システム形成におけるGHQの方針と日本の選択」『日本医療経済学会会報』日本医療経済学会, 28巻1号, 2009年8月, pp. 1-25.
4. (単著)「占領期日本の医療政策過程における一考察-医薬分業をめぐるGHQ、日本医師会、厚生省の影響力関係を中心に-」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 70巻3号, 2009年10月, pp. 37-58.
5. (単著)「医療制度改革と医療法人ガバナンス」『日本経営学会第84回大会報告要旨集』, 石巻専修大学, 2010年9月, pp. 370-373.
6. (単著)「実地修練(インターン)制度に関する研究-新医師臨床研修制度に与える示唆」『医療と社会』医療科学研究所, 20巻3号, 2010年10月, pp. 239-250.
7. (単著)「アメリカ合衆国における医療アクセス環境」未刊行, 東北大学大学院経済学研究科ポストディレギュレーション期市場経済システム研究者派遣事業プログラム報告書, 2011年5月, 5p.
8. (単著)「厚生白書に見る医療専門職に求められる倫理と行政的対応の変遷について-1956年~2001年-」『TERG Discussion Paper』東北大学経済学研究科, No. 283, 2012年6月, 20p.
9. (単著)「病院を経営する医療法人の財務分析」『経営学論集 アジア企業の経営から学ぶ』日本経営学会, 第83集, 2013年9月, pp. 1-13[15].
10. (単著)「日本における医療専門職の倫理-厚生白書をてがかりに-」『研究年報経済学』74巻4号, 東北大学経済学会, 2014年3月, pp. 133-149.
11. (単著)「青森県における病院の医療情報公開の現状と課題」『研究紀要』38巻1号, 青森大学, 2015年7月, pp. 43-66.
12. (単著)「オープンデータの意義について-企業価値創造-」『研究紀要』38巻2号, 青森大学, 2015年11月, pp. 49-76.

[学会発表]

1. (単独)「医療法人制度の形成過程」日本医療経済学会第13回研究例会, ぱるるプラザ京都, 2006年2月.
2. (単独)「戦後日本の医療制度形成過程に関する史的考察-GHQによる医療制度改革」医療経済学会第2回研究大会, 学習院大学, 2007年7月.
3. (単独)「占領期日本の医療システム形成における政治的力関係に関する考察-戦時・戦後の連続性と断絶性の視点から-」社会経済史学会第11回東北部会, 東北大学, 2007年11月.
4. (単独)「戦後日本の医療システム形成における政治的力関係に関する考察-GHQ、厚生省、日本

医師会および開業医の利害を中心に-」日本医療経済学会第32回研究大会，東京都総評会館，2008年9月。

5. (単独)「医療制度改革と医療法人ガバナンス」日本経営学会第84回研究大会，石巻専修大学，2010年9月。

6. (単独)「新医師臨床研修制度への提言-インターン制度の経験をどう活かすか」日本医療経済学会第34回研究大会，東京都全労連会館，2010年9月。

7. (単独)「東北6県医療法人決算書分析」日本経営学会東北部会，東北学院大学サテライトステーション，2012年3月。

8. (単独)「病院を経営する医療法人の財務分析」日本経営学会第86回大会，日本大学，2012年9月。

9. (単独)「青森県における医療の課題と可能性」(基調講演)国際経営文化学会第19回大会，千葉大学，2014年10月。

10. (堀籠崇、岩淵護)「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」あおもりオープンデータ活用推進フォーラム2015，青森県ねぶたの家ワ・ラッセ，2015年1月。

11. (単独)「企業におけるデータ開放事例から見る医療データ公開の課題と展望」日本経営学会東北部会，新潟大学，2015年3月。

12. (単独)「青森県における医療情報公開-医療情報公開がもたらす可能性について-」国際経営文化学会第20回大会，千葉大学，2016年6月。

[その他の活動]

[研究費の取得状況]

1. (研究代表者)「医療法人のガバナンスに関する研究-病院ガバナンス論の確立のために」文部科学省科学研究費，若手研究B(研究課題番号23730339)，助成額170万円(直接経費)，2011-2012年度。

2. (研究代表者)「医療法人病院のガバナンスと意思決定」文部科学省科学研究費，若手研究B(研究課題番号25780225)，助成額280万円(直接経費)，2013-2015年度。

3. (研究代表者)「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」(共同研究者；岩淵護【青森大学】)青森県商工労働部新産業創造課，委託金額29万円，2014年度。

4. (研究分担者)「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究」(研究代表者；岩淵護【青森大学】)文部科学省科学研究費，基盤研究C(研究課題番号15K03671)，助成額100万円(直接経費)，2015-2018年度。

5. (研究代表者)「青森県における医療ツーリズムを通じた地域活性化の可能性に関する研究事業」(共同研究者；松本大吾【青森大学】)公益財団法人青森学術文化振興財団助成金，助成額54万8千円，2016年度。

[公開講座、講演、セミナー]

1. オープンデータを活用した営業戦略企画研修講師「企業オープンデータ戦略の展開-その意義と企業価値の創造について-」株式会社ソフトアカデミーあおもり，2015年9月。

[学内各種委員]

2014年度 学長補佐室、教務委員会

2015年度 学長補佐室、全学教務委員会、学部教務委員会(学部教務委員長)、FD委員会、青森大学附属総合研究所(所員)

2016年度 学長補佐室、全学教務委員会、学部教務委員会(学部教務委員長)、FD委員会、学習支援センター

【学外各種委員】

地域経営学会監事（2015年度）

同理事（2016年度）

氏 名 松本 大吾 (MATSUMOTO Daigo)

所 属 経営学部

職 種 専任講師

生年月日 1980年4月21日

[履 歴]

[学 歴]

2003年3月 青森公立大学経営経済学部経営経済学科 卒業

2005年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科修士課程 修了

2009年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科博士前期課程 修了

2015年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科博士後期課程 単位取得退学

[学 位]

修士 (経営経済学) 青森公立大学

[職 歴]

2005年4月 株式会社ユニバース入社 (～2006年1月)

2012年12月 青森公立大学臨時職員 (科研費研究補助) (～2014年3月)

2014年9月 青森大学経営学部 専任講師 (現在に至る)

[受 賞]

該当なし

[所属学会]

日本会計研究学会、日本簿記学会、日本会計教育学会、地域経営学会、日本経営学会、日本統計学会

[教育活動]

[担当科目]

2016年度：会計学基礎論、会計学（上級）、商業簿記（上級）、管理会計論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論Ⅰ、経営分析論、簿記基礎総合演習Ⅰ・Ⅱ、経営学演習、プロジェクト演習

[卒業研究指導]

該当なし

[ゼミ指導]

2015年度：経営基礎演習（1年ゼミ）18名、科学方法論演習（2年ゼミ）13名

2016年度：経営学演習（2年ゼミ）17名

[教育指導に関する特記事項]

日本商工会議所簿記検定の取得を目指す学生に対して、個別に履修科目・受験時期の相談に乗ったり、指導したりしている。また、試験前には、正規の授業外で補習を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 多国籍企業のタックス・マネジメント

2. 経営分析における公的経済統計の活用

【著書、論文、総説】

1. (単著)「現代企業経営におけるタックス・マネジメントの課題ーわが国企業の国際的活動における租税とタックス・マネジメントー」『経営経済学研究』青森公立大学, 16 巻 2 号, 2011 年 3 月, pp. 47-57.
2. (単著)「多国籍企業のタックス・マネジメントーその諸機能と管理体系ー」『経営経済学研究』青森公立大学, 17 巻 1 号, 2011 年 9 月, pp. 17-32.
3. (単著)「多国籍企業の形成要因と発展過程ー管理会計的租税管理を志向してー」『多国籍企業統計作成の意義と試みー事業所・企業統計の匿名化マイクロデータの作成実験と社会経済変動過程の解析への応用ー』統計数理研究所共同研究リポート 282, 2012 年 3 月, pp. 29-45.
4. (単著)「多国籍企業の会計処理の問題点」『複雑な企業構造と産業分類の多様性による計算機による企業名特定化の問題』統計数理研究所共同研究リポート 303, 2013 年 3 月, pp. 27-42.
5. (単著)「公的経済統計を活用した内国法人の経営分析試論ー多国籍企業集団中の飲食サービス業の租税戦略を中心にー」『匿名化手法と企業分類格付け・産業構造の変容』統計数理研究所共同研究リポート 325, 2014 年 3 月, pp. 3-39.
6. (単著)「会計学教育の事例研究における公的経済統計の活用ー多国籍企業集団の一環としての内国法人を通じた租税戦略分析への活用ー」『会計教育研究』日本会計教育学会, 2 号, 2014 年 8 月, pp. 5-13.
7. (共著)『新版 入門経営分析 (第 2 版)』同文館出版, 2015 年 12 月.
8. (共著)『多国籍企業の分類基準に関してー平成 21 年経済センサス - 基礎調査にみる外資系企業の親会社所在地ー』統計数理研究所共同研究リポート 366, pp. 29-41, 2016 年 3 月.

【学会発表】

1. (単独)「グローバル・タックス・マネジメントの意義と課題」日本会計研究学会第 78 回東北部会, 東北学院大学, 2010 年 5 月.
2. (単独)「グローバル・タックス・マネジメントの諸機能と管理体系ー理論構築の試みー」日本会計研究学会第 70 回全国大会, 久留米大学, 2011 年 9 月.
3. (単独)「経営分析における公的経済統計の活用試論ー多国籍企業集団の内国法人を通じた租税戦略分析への活用ー」日本会計研究学会第 73 回全国大会, 横浜国立大学, 2014 年 9 月.
4. (共同)「多国籍企業の分類基準に関して」日本分類学会第 33 回全国大会, 帝京大学, 2015 年 3 月.

【その他の活動】

日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における経営学分野の参照基準」パネリスト, 日本学術会議講堂, 2012 年 6 月.

【研究費の取得状況】

1. (研究分担者)「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究」(研究代表者: 岩淵護) 文部科学省科学研究費, 基盤研究 C (研究課題番号 15K03671), 助成配分額 50 万円 (直接経費), 2015-2018 年度.
2. (研究分担者)「青森県における医療ツーリズムを通じた地域活性化の可能性に関する研究事業」(研究代表者: 堀籠崇) 青森学術文化振興財団, 助成合計額 54.8 万円, 2016 年度.

【公開講座、講演、セミナー】

該当なし

【学内各種委員】

2015 年度：入試選抜委員、学生募集委員（オープンキャンパス班・入学案内班）、高大連携、学長補佐室

2016 年度：学長補佐室、教務委員会、青森大学ガンバル隊

【学外各種委員】

地域経営学会 総務・幹事長

氏名 渡部 あさみ (WATANABE, Asami)

所属 経営学部

職種 専任講師

生年月日

[履 歴]

[学 歴]

2006年3月 高崎市立高崎経済大学経済学部経営学科卒業

2008年3月 高崎市立高崎経済大学大学院経済・経営学科
現代経営ビジネス専攻博士前期課程修了

2014年3月 明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程修了

[学 位]

2014年3月 博士(経営学) 明治大学大学院

[職 歴]

2006年4月1日～ 2008年3月25日 高崎経済大学経済学部 TA

2008年4月1日～ 2010年3月31日 明治大学大学院経営学研究科 RA

2010年4月1日～ 2012年3月31日 明治大学経営学部助手

2012年4月1日～ 2012年4月30日 明治大学大学院経営学研究科 RA

2012年5月1日～ 2013年3月31日 明治大学経営学部助手

2013年4月1日～ 2013年8月31日 明治大学大学院経営学研究科 教育補助講師

2013年9月1日～ 現在に至る 青森大学経営学部 専任講師

2014年9月1日～ 現在に至る 青森公立大学非常勤講師

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本経営学会、社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、Asia-Pacific Researchers in Organisation Studies, European Group for Organization Studies

[教育活動]

[担当科目]

経営管理論Ⅰ・Ⅱ、労務管理論、社会政策論、科学方法論演習、文章の理解と表現、基礎演習、地域貢献基礎演習

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

基礎演習で18名を指導

科学方法論演習で12名を担当

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

[研究テーマ]

先進諸国における長時間労働問題と労働時間管理

[著書、論文、総説]

著書

1. 渡部あさみ、『時間を取り戻す-長時間労働を変える人事労務管理-』旬報社、205頁、

2016年。

学術論文

1. 渡部あさみ、「『サービス残業』の構造に関する一考察」、『経営学研究論集』、明治大学大学院、第30号、pp.65-84、2009。
2. 渡部あさみ「長時間労働と人事労務管理」、『Informatics』、明治大学情報基盤本部、Vol.2, No.2、pp.81-92、2009。
3. 渡部あさみ「所定外労働時間削減における労働組合の役割-A社の事例から-」、『労務理論学会学会誌』、晃洋書房、第19号、pp.165-177、2010。
4. 渡部あさみ「Long Working Hours in Japan-The Case of Firm A-」、『Meiji Business Review』、The Institute of Business Management Meiji University、Vol.58 No.1、pp.133-149、2010。
5. 渡部あさみ「長時間労働をめぐる議論-ホワイトカラー労働を中心に-」『経営学研究論集』明治大学大学院、第34号、pp.77-94、2011。
6. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理の変化-非正規雇用労働者の増大と正規雇用労働者の長時間労働-」、『社会政策学会学会誌』、社会政策学会、第4号第2号、pp.94-104、2012。
7. 渡部あさみ「Attempts to Reduce Working Time in the Japanese Workplace」『Business Review』、The Institute of Business Management Meiji University、Vol.60 No.4、pp.175-191、2013。
8. 渡部あさみ「東北地方における労働力確保へ向けた人事労務管理に関する一考察-A県M銀行における「働きやすい職場」づくりへ向けた取組を手掛かりに-」青森大学学術研究会『研究紀要』第36巻第3号(通巻118号)、pp.195-218、2014。
9. 渡部あさみ「日本におけるグローバル枠組み協定の締結背景とその意義-労使の取組事例からの一考察-」社会政策学会誌『社会政策』、第8巻第1号、pp.127-139、2016。

解説

1. 担当項目は、「時間外労働(p.340)」、「スーパーフレックスタイム制(p.432)」、「非正規労働センター(p.787) ⇒ 『連合非正規労働センター(p.948)』」、「不払い残業相談ダイヤル(p.833)」、「労働時間みなし制(pp.966-997)」、「労働時間短縮促進臨時措置法改正(2001年)(p.966) ⇒ 『時短促進法改正』(p.345)」、「ネットカフェ難民(p.753)」、「変形労働時間制(p.833)」、「リーン生産方式(p.933)」の9項目を担当。大原社会問題研究所編(2011)『社会労働大辞典』、旬報社。
2. 「規制緩和と労働時間」労務理論学会編『経営労務辞典』、晃洋書房、第5章3項、pp.104-105、2011。

[学会発表]

1. 渡部あさみ「『サービス残業』の実態と構造」
労務理論学会第18回全国大会、金沢大学、2008年6月。
2. 渡部あさみ「長時間労働とその発生要因について」
社会政策学会第117回秋季大会、岩手大学、2008年10月。
3. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本的経営以降の雇用管理に着目して-」
第23回社団法人東京都信用金庫協会金融・経済研究会、信用金庫会館、2009年6月。
4. 渡部あさみ「長時間労働に関する一考察」
労務理論学会第19回全国大会、駒澤大学、2009年7月。
5. 渡部あさみ「人事労務管理のフレキシブル化と長時間労働-新日本的経営以後の人事労務管理の変化からの一考察-」日本経営学会第83回大会、九州産業大学、2009年9月。
6. 渡部あさみ「長時間労働をめぐる論議」
労務理論学会第20回全国大会、龍谷大学、2010年6月。
7. 渡部あさみ「雇用管理の変化と長時間労働-非正規雇用労働者の増大と正規雇用労働者の長時間労働-」社会政策学会第121回秋季大会、愛媛大学、2010年10月。

8. Watanabe, Asami "Case Study on How to Reduce Non-scheduled Hours -Discussion about Overtime Work in Japan-" 『The 27th European Group for Organization Studies』, Gothenburg University (Gothenburg, Sweden), July, 2011.
9. 渡部あさみ「人事労務のフレキシビリティと長時間労働問題」労務理論学会第22回全国大会、阪南大学、2012年6月。
10. Watanabe, Asami "Working Time Reduction in Japanese Work Places: Building upon Case Studies on How to Reduce Non-Schedule Hours" 『The 15th Asia-Pacific Researchers in Organisation Studies Conference』, Hitotsubashi University (Tokyo, Japan), February, 2013.
11. Watanabe, Asami "The Changing Labour Flexibility in Japanese Workplaces" 『The 12th International Federation of Scholarly Associations of Management World Congress in Tokyo』, Meiji University (Tokyo, Japan), September, 2014.
12. 渡部あさみ「日本におけるグローバル枠組み協定の締結背景とその意義—労使の取組事例からの一考察—」社会政策学会第130回春季大会、お茶の水女子大学、2015年6月。

【その他の活動】

研究会・ワークショップ

1. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本の経営以降の雇用管理に着目して-」法政大学大原社会問題研究所第43回現代労使関係・労働組合研究会、法政大学、2009年5月。
2. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本の経営以降の雇用管理に着目して-」第23回社団法人東京都信用金庫協会金融・経済研究会、信用金庫会館、2009年6月。
3. 渡部あさみ「長時間労働問題と人事労務管理-運輸系大企業A社の事例を中心に-」、21世紀の労働と社会研究会（現：雇用・社会保障の連携部会(社会政策学会関連部会)）明治大学、2009年10月。
4. Watanabe, Asami "The Factor of Long Working Hours in Japan: A Case of A firm" 『21st Century Business Issues in North America, Asia and Oceania』, Meiji University (Tokyo, Japan), October, 2009.
5. 渡部あさみ「1990年代以降における正規ホワイトカラー労働者の長時間労働問題に関する研究—日本における人事労務のフレキシビリティと長時間労働—」労働社会学会第25期第1回研究例会、専修大学、2013年2月。
5. Watanabe, Asami "Some Comments on Labour Flexibility and Overwork in Japan" 『Work, Employment and Human Resource Management: Observations from Japan and the UK』, Lancaster University (Lancaster, UK), February, 2012. 『Cardiff-Meiji Doctoral Workshop』, Cardiff University (Cardiff, UK), March, 2012.
6. 渡部あさみ「正規ホワイトカラー労働者の長時間労働と人事労務管理のフレキシビリティ」日本経営学会東北部会、大鰐温泉（青森県）、2013年11月。
7. 渡部あさみ「日本における長時間労働問題と労働時間管理」ビジネス・イノベーション研究所第57回研究会・所員会議、2014年5月。
8. 渡部あさみ「日本企業におけるグローバル枠組み協定の運用実態と課題—ミズノ労使の取り組みを手掛かりに—」社会政策学会雇用・社会保障の連携部会研究会「日本企業における変化の諸相」、山形大学、2014年11月。

【研究費の取得状況】

1. (研究代表者)「先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理」文部科学省科学研究費、若手研究 B(研究課題番号 26780212)研究費総額 299 万円、2014 年度～2016 年度。
2. (研究分担者)「日本企業の市民社会化の研究—経営の共同体モデルから市民社会モデルへ」文部科学省科

学研究費、基盤研究 C(研究課題番号 25380459) 研究費総額 481 万円、2013 年度～2015 年度。

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

入試選抜委員会(2013 年度から現在)、大学案内作成委員会(2013～2014 年度)

ソフトウェア情報学部

氏名 友田 敏章 (TOMODA Toshiaki)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1947年7月4日

[履歴]

[学歴]

1971年6月 東京大学理学部物理学科卒業

1973年3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了

1976年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了

[学位]

理学博士 1976年3月 東京大学

[職歴]

1976年4月 日本学術振興会奨励研究員

1979年9月 Max-Planck-Institut für Kernphysik (Heidelberg, Germany) 客員研究員

1982年9月 Technische Universität München (Germany) 研究員

1983年5月 Universität Tübingen (Germany) 研究員

1987年9月 Paul-Scherrer-Institut (Villigen, Switzerland) 研究員

1992年4月 青森大学工学部情報システム工学科教授

1994年4月～1998年3月、2002年4月～2009年3月 情報システム工学科長

2004年4月 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授

2004年4月～2008年3月 ソフトウェア情報学部長

2008年4月～2011年3月 ソフトウェア情報学科長

2011年4月 ソフトウェア情報学部長

[所属学会]

情報処理学会、情報処理学会音楽情報科学研究会、日本工学教育協会、コンピュータ利用教育学会、日本物理学会、IEEE Computer Society、Association for Computing Machinery、American Physical Society

[教育活動]

[担当科目]

基礎物理学、コンピュータ基礎、コンピュータネットワーク、コンピュータミュージック、数値解析、情報科教育法Ⅱ、数学科教育法Ⅳ、基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎演習A・B、ソフトウェア情報学基礎ゼミナールA・B、創作ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究

[卒業研究指導]

2011年度卒業研究： 2名

2012年度卒業研究： 2名

2013年度卒業研究： 2名

2014年度卒業研究： 2名

2015年度卒業研究： 2名

[ゼミ指導]

2011年度基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ： 5名

2011年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ： 2名

2012年度基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ： 5名

2012年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ： 2名

2013 年度基礎演習 A・B： 6 名
2013 年度創作ゼミナール I・II： 1 名
2014 年度創作ゼミナール I・II： 2 名
2015 年度ソフトウェア情報学基礎ゼミナール A・B： 8 名
2015 年度創作ゼミナール I・II： 2 名

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) リズム同期型伴奏システムの開発
- (2) 二重ベータ崩壊の理論的研究

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

青森市立高等看護学院学生対象パソコン演習授業の企画および講師担当 (2011 年度)

[学内各種委員]

入試管理委員 (2011 年度～2015 年度)
入試管理委員会委員長 (2012～2015 年度)
FD 委員会委員 (2013～2015 年度)
地域貢献委員会委員 (2013～2015 年度)
留学生総合支援局委員 (2011 年度～2014 年度)

[学外各種委員]

東北原子力懇談会参与 (2011 年度)
東北エネルギー懇談会参与 (2012～2015 年度)

氏名 矢萩 正人 (YAHAGI Masahito)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職種

生年月日

[履歴]

[学歴]

1973年3月 法政大学工学部電気工学科卒業

1975年3月 法政大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了

1983年3月 法政大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了

[学位]

工学博士 1983年3月 法政大学

[職歴]

1983年4月 法政大学工学部 非常勤講師

東京都立工業高等専門学校 非常勤講師

1987年4月 山形県立長井工業高等学校 教諭

1992年4月 青森大学工学部電子情報工学科 助教授

1999年4月 青森大学工学部電子情報工学科 教授

2001年4月 青森大学工学部電子システム工学科 (学科名変更) 教授

2004年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 教授

[受賞]

[所属学会]

日本物理学会、応用物理学会、日本原子力学会 (永年会員)、日本工学教育協会、東北工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、代数学Ⅰ、センサデバイス、ロボテックス、
情報と職業、数学科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅰ、創作ゼミナールⅠ、
創作ゼミナールⅡ、卒業研究

[卒業研究指導]

2011年度卒業研究：4名

2012年度卒業研究：3名

2013年度卒業研究：4名

2014年度卒業研究：3名

[ゼミ指導]

2011年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ：3名

2012年度基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ：4名

2013年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ：3名

2014年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ：3名

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

(1) 教材としてのロボットの開発

(2) エネルギー変換用素材 Li 化合物の物性研究

(3) Hydrogen diffusion in NaTi-type intermetallic compound LiAl

[原著論文・総説]

1. K. Nakamura, K. Motoki, Y. Michihiro, T. Kanashiro, M. Yahagi, H. Hamanaka and K. Kuriyama : Li+

ion Diffusion and Vacancy Ordering in γ -LiGa.

Faraday Discuss.,

134, (2007) 343-352.

2. Sun-Chan Jeong, Ichiro Katayama, Hirokane Kawakami, Yutaka Watanabe, Hironobu

Ishiyama, Nobuaki Imai, Yoshikazu Hirayama, Hiroari Miyatake, Masao Satake, Hiroyuki

Sugai, Satoru Okayasu, Shin-Ichi Ichikawa, Katsuhisa Nishio, Shinichi Mituoka,

Takamitsu Nakanoya, Takashi Hashimoto, Masahito Yahagi, and Takanori Hashimoto :

On-Line Diffusion Tracing in Li Ionic Conductors by the Short-Lived Radioactive Beam of ^8Li

Li, Jpn. J. Appl. Phys. 47 (2008) 6413.

3. Daisuke Nishioka, Koichi Nakamura, Yoshitaka Michihiro, Takashi Ohno, Tatsuo

Kanashiro, Kazuo Kuriyama, Hiromi Hamanaka, and Masahito Yahagi : NMR Study on

Defect Structure in γ -LiGa,

J. Phys. Soc. Jpn. 77 (2008) 034604.

4. Shigeki Endou, Takashi Ohno, Yutaka Kishimoto, Daisuke Nishioka, Yoshitaka Michihiro,

Yu Kawasaki, Yukiichi Ideta, Kazuo Kuriyama, Hiromi Hamanaka, and Masahito

Yahagi : 7

Li Spin-Lattice Relaxation at Low Temperatures in a Superionic Conductor

γ -LiGa,

J. Phys. Soc. Jpn. 78 (2009) 104601.

5. 鄭 淳讚、須貝宏行、矢萩正人、 γ -最近の研究から γ -Li イオンの振舞いを捉まえる : 再加速短寿命核ビーム 8

Li による Li 拡散実験、日本物理学会誌 Vol.64, No.9, (2009)

687-691.

[研究発表]

1. K. Nakamura, K. Motoki, Y. Michihiro, T. Kanashiro, M. Yahagi, H. Hamanaka and K.

Kuriyama : Li+

Ionic Diffusion and Vacancy Ordering in γ -LiGa、Faraday

Discussion

134, Atomic Transport and Defect Phenomena in Solids, University of Surrey, Guildford,

UK,10-12 July 2006.

2. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya, A. Osa,

T. Sato, T. Hashimoto, S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe,

H. Ishiyama, N. Imai, Y. Hirayama, H. Miyatake, Takanori Hashimoto, M. Yahagi :
Diffusion of ^8Li

Li Short-Lived Radiotracer in Li Ionic Conductors of NaTl-type Intermetallic Compounds, 3rd International Conference on Diffusion in Solids and Liquids (DSL2007),

Algarve Portugal, 4-6 July, (2007).

3. 鄭 淳讚、石山博恒、片山一郎、川上宏金、渡邊裕、今井伸明、平山賀一、宮武宇也、左高正雄、岡安 悟、須貝宏之、市川進一、西尾勝久、仲野谷孝充、光岡真一、矢萩正人、橋本恭能、「短寿命核 ^8Li

を用いたリチウムイオン伝導体における拡散

実験・マイクロからナノ拡散へ」、第 12 回超イオン導電体物性研究会、第 49 回固体イオニクス研究会合同、2008 年 6 月 26-27 日、山形市市民活動支援センター

4. Sun-Chan Jeong, Ichiro Katayama, Hirokane Kawakami, Yutaka Watanabe, Hironobu

Ishiyama, Nobuaki Imai, Yoshikazu Hirayama, Hiroari Miyatake, Masao Sakata, Hiroyuki Sugai, Satoru Okayasu, Shin-Ichi Ichikawa, Katsuhisa Nishio, Shinichi Mitsuoka, Takamitsu Nakanoya, Takashi Hashimoto, Takanori Hashimoto, and Masahito

Yahagi : Diffusion Experiment in Lithium Ionic Conductors with the Radiotracer of ^8Li :

from Micro- to Nano-diffusion, The 6th Japan-Italy symposium on Heavy Ion Physics 11-15th Nov. 2008. Tokai.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

矢萩正人、「LabVIEW を用いた計測制御システムの構築」ソフトウェア情報学科 第 7 回学科セミナー、2009 年 3 月 11 日

矢萩正人、「LabVIEW を用いた計測制御システムの構築」ソフトウェア情報学科 第 7 回学科セミナー、2009 年 3 月 11 日

[研究報告]

1. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y. Hirayama, H.

Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,

T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of Self-Diffusion Coefficients in Li Ionic Conductors by Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li

Li JAEA-Tokai TANDEM Annual

Report 2004, 61-62, January 2006.

2. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y.

Hirayama,

H. Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,

T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of the Diffusion Coefficients in $^7\text{LiGa}$
by

Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li

Li JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2005, 79-80,
September 2006.

3. 片山一郎、鄭淳讚、川上宏金、渡辺豊、石山博恒、今井伸明、平山賀一、宮武宇也、佐高正雄、岡安悟、須貝宏行、仲野谷孝充、市川進一、西尾勝久、光岡真一、橋本尚志、矢萩正人、橋本恭能：セッション方式による短寿命核の固体拡散実験 KURRI-KR-136 「原子核プローブ生成とそれを用いた物性研究」専門研究会報告(III) (2007).

4. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y. Hirayama,

H. Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,

T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of the Diffusion Coefficients in $^7\text{LiGa}$
by

Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li

Li JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2006, 85-86,
January 2008.

5. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya, A.

Osa, T.K. Sato, T. Hashimoto, S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, H. Ishiyama, N. Imai, Y. Hirayama, H. Miyatake, Takanori Hashimoto and M.

Yahagi : Diffusion of ^8Li

Li short-lived radiotracer in Li ionic conductors of NaTl-type

intermetallic compounds, JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2007, 91-92,
November 2008.

6. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya, S.C.

Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, H. Ishiyama, N. Imai, Y.

Hirayama, H. Miyatake, T. Hashimoto and M. Yahagi : Diffusion of ^8Li

Li short-lived

radiotracer in NaTl-type intermetallic compound LiAl, JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2008, 93-94, November 2009.

[公募研究課題の採択]

2009 年度下期 J-PARC(Japan Proton Accelerator Research Complex)物質・生命科学実験施設

設の実験課題（成果公開型）に以下の課題名で採択された。

課題名：Hydrogen diffusion in NaTl-type intermetallic compound LiAl

須貝宏行（日本原子力研究開発機構）、矢萩正人、橋本恭能（青森大学）

[研究費の取得状況]

科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）（課題番号：16360317）

課題名：短寿命核 8

Li を用いた Li イオン導電体の拡散研究

研究責任者：鄭 淳讚（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

研究分担者：片山一郎（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

東條栄喜（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

石山博恒（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

渡辺 裕（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

市川進一（日本原子力研究開発機構・先端基礎研究センター）

矢萩正人（青森大学工学部電子システム工学科）

高田和典（物質材料研究機構・物質研究所）

2004～2006 年度 15,500,000 円

[その他の活動]

[学内各種委員]

入試管理委員（2006 年 4 月～2007 年 3 月、2009 年 4 月～2016 年 3 月）

入試選抜委員（2006 年 4 月～2016 年 3 月）

教職課程委員（2006 年 4 月～2007 年 3 月、2008 年 4 月～2010 年 3 月）

大学協議会委員（2014 年 4 月～2016 年 3 月）

学生募集委員（2014 年 4 月～2016 年 3 月）

[学外各種委員]

青森県立青森工業高等学校 学校評議員（2006 年 4 月～2008 年 3 月）

原子力平和利用連絡協議会 委員（2006 年 4 月～2016 年 3 月）

氏名 塚本知夫 (TSUKAMOTO Tomoo)

職名 教授

所属 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

生年月日 1948 年 7 月 4 日

[履歴]

[学歴]

1973 年 3 月 明治学院大学文学部英文科 卒業

1975 年 5 月 インディアナ大学教育学部修士課程 修了
(TESOL・応用言語学)

[学位]

1975 年 5 月 教育学修士 (MS in Edu) 米国インディアナ大学

[職歴]

1969 年 5 月－1970 年 8 月 米軍スターズ・アンド・ストライプス社

1970 年 8 月－1973 年 8 月 米陸軍科学技術センター翻訳課 (技術翻訳)

1975 年 9 月－1982 年 3 月 グリーン英会話専門学校 講師

1979 年 4 月－1993 年 3 月 獨協大学外国語学部英語科 非常勤講師

1981 年 4 月－1989 年 3 月 フェリス女学院短期大学 非常勤講師

1982 年 4 月－1992 年 3 月 明治学院大学文学部英文科 兼任講師

1988 年 4 月－1992 年 3 月 法政大学第二教養部 兼任講師

1992 年 4 月－ 青森大学ソフトウェア情報学部 教授

[所属学会]

大学英語学会 (JACET) 全国語学協会 (JALT)

現在はなし

[教育活動]

[担当科目]

英語 I AB、英語 II AB、英語 III (薬)、英語 IV、薬学英语 I & II

[教育指導に関する特記事項]

1. テキスト作りの工夫：文学作品から、映画化されて DVD が入手できるものを選び、テキストに作る。英文の構成、語彙、文法等に、難解な点があれば、英文を書き換える。テキストにはイラストなどを添え、見やすいテキスト作りに励む。さらに、語彙や文法の問題をつける。

《チャールズ・ディケンズの小説群から》

(a) A Christmas Carol クリスマス・キャロル

《シャーロック・ホームズの冒険から》

(b) The Solitary Cyclist 美しき自転車乗り

(c) The Red-Headed League 赤髪同盟

(d) The Illustrated Client 高名の依頼人

(e) The Greek Interpreter ギリシャ語通訳

(f) A Scandal in Bohemia ボヘミアの醜聞

(g) The Dancing Man 踊る人形

(h) The Crooked Man まがった男

(i) The Man with the Twisted Lip もう一つの顔

(j) The Dying Detective 瀕死の探偵

2. TOEIC・IP 英語検定試験準備：英語検定試験 TOEIC の準会場試験(TOEIC・IP)

の責任者として試験を準備・実施。また受験者の為の勉強会も開催している。

3. 研究室での始動を活発化させる為に、私の研究室を訪問しての質問や相談に対して、学生の最終評価にポイントを提供する。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 英語教育法
2. 日英比較

[著書、論文、総説]

1. 塚本知夫ほか：「The TOEIC TEST TRAINER Listening Supplement Teacher's Manual」制作：アスク 販売：トムソンコーポレーション
(2007年1月31日)
2. 塚本知夫：「Quick Training for the TOEIC TEST」、「Quick Training for the TOEIC TEST」Teacher's Manual 制作：アスク 発行：センゲージラーニング、アスク (2008年1月20日)
3. M. Yamaguchi, H. Matsuura, M.H.Maesaka, G.W.Pifer, T. Tsukamoto 他：The TOEIC Test Trainer Teacher's Manual 出版社 J R M (韓国)、2008年9月19日
4. Tomoo Tsukamoto & Geoffrey Tozer : Eiken Lodestart
株式会社アスク センゲージラーニング 2009年1月20日

[その他の活動]

[学内各種委員]

語学担当者グループ代表
国際交流委員会 委員長

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1965 年 2 月 4 日

[履歴]

[学歴]

1989 年 3 月 大阪市立大学理学部卒業

1991 年 3 月 大阪市立大学大学院前期博士課程終了

1994 年 3 月 大阪市立大学大学院後期博士課程単位取得退学

1994 年 4 月 大阪大学核物理研究センター研究員

[学位]

博士 (理学)

[職歴]

1995 年 4 月 大阪大学核物理研究センター非常勤講師

1996 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2003 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2006 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教授

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

2013 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授

[所属学会]

日本物理学会、情報処理学会、リモートセンシング学会、写真測量学会、
芸術科学会、水環境学会、環境科学会

[教育活動]

[担当科目]

プログラミング演習 I、プログラミング演習 II

ソフトウェア情報学基礎ゼミナール A、ソフトウェア情報学基礎ゼミナール B

創作ゼミナール I、創作ゼミナール II

[卒業研究指導]

2012 年卒業研究： 2 名

2013 年卒業研究： 2 名

2014 年卒業研究： 2 名

2015 年卒業研究： 2 名

2016 年卒業研究： 1 名

[ゼミ指導]

2012 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2013 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2014 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2015 年創作ゼミナール I,II： 1 名

2016 年創作ゼミナール I,II： 2 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 学部のプログラミング教育の再構成と学生のプログラミング能力向上を目指して、1~2 年生の中心科目として「プログラミングワークショップ I,II,III,IV」を提案、2007 年度から実施。入学時より 2 年間、週 2 回ずつ、少人数のゼミ形式やグループワークを積極的に取り入れて、プログラミ

ング教育の質向上を目指す。

2. 大学入学時における導入教育として、入学直後の最初の 1 週間の専門科目の 1 コマ目すべてを使った初年次教育の取り組みを提案、2008 年度から実施。最初のタイミングでの学習意欲の向上や、グループワークによるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、学生同士、または教員との交流を深めることで孤立化やドロップアウトを防ぐことを目的とする。
3. デジタルアーカイブおよびデジタル青森の研究を通じて学外と積極的に交流し、その研究プロジェクトの中に学生を参加させることで、学生と社会との接点を増やすことを心がける。また学外での ICT イベントにも積極的に参加し、学生に役割を持たせることで学生と企業の技術者との交流をはかり、また職業意識の向上や責任感の自覚を促す。
4. 地理情報システムや VR/AR の研究や初心者向けのプログラミングセミナーを通じて、学内の学生だけでなく県内の高校生や中学生、さらに一般市民に対しても情報技術の魅力を伝える取り組みを実施、またそれを学部での学生教育にフィードバックさせることに取り組む。ワープロ+表計算+プレゼンツールの道具教育ではない、本来の情報教育の重要性について、学内外に発信する取り組みを行う。
5. 小久保、和島とともに創作ゼミナール（3 年生）と卒業研究（4 年生）を 3 研究室合同で実施、学生間の交流を活性化させるとともに、プロジェクトベースの研究によって成果の高度化をはかる。また複数担当者による学生ケアの充実に取り組む。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) デジタルコンテンツに関する研究
- (2) 地理情報システムに関する研究
- (3) Web システム・モバイルシステムに関する研究
- (4) プログラミング教育に関する研究

[著書、論文、総説]

1. “斜め写真の画像データ処理と活用に関する研究”，角田均・和島茂，青森大学研究紀要第 37 巻第 3 号(2015 年 2 月)。
2. “学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォーム AOCa の設計と実装”，小久保温・角田均・伊藤匠・織田将史・三上絢佳・今北斗・柏谷至・工藤雅世・坂田令，青森大学総合研究所紀要(2015.3.31)。

[学会発表]

1. "3D GIS における建物モデルの表示高速化", 菅野駿哉, Menendez Francisco Javier, 角田均, 芸術科学会東北支部大会(岩手大)(2012/1/6)
2. "3D GIS による BOD の長期評価", Menendez Francisco Javier, 小久保温, 角田均, 三上 一, 第 46 回水環境学会年会ノンポイント汚染研究委員会(東洋大)(2012/3/14-16)
3. "3D GIS システム「デジタル青森」による岩木川水系の水質の可視化と評価について", 三上一, 小久保温, 角田均, 第 46 回水環境学会年会(東洋大)(2012/3/14-16)
4. "視覚障害者が楽しむことができる「触れる絵画」の制作", 小久保温, 角田均, 和島茂, 芸術科学会芸術科学フォーラム 2012(東京工芸大)(2012/3/16)
5. "航空写真の簡易的なオルソ化と 3 次元地形テクスチャの生成", 角田均, 和島茂, 写真測量学会平成 24 年度年次学術講演会(東大)(2012/5/21-22)
6. "3 次元 GIS による水質可視化の研究", 角田均, 三上一, 環境科学会 2012 年会(横浜国大)(2012/9/13-14)
7. "被写体の形状・模様を用いた航空写真のオルソ化", 和島茂, 角田均, 写真測量学会秋季学術講演会

(秋田アトリオン)(2012/11/1-2)

8. "情報技術の活用による自然学習の高度化と継続的な環境教育のしくみづくり",三上一,角田均, 第47回水環境学会年会(大工大)(2012/3/11-13)
9. "斜め写真からの大規模構造抽出", 和島茂,角田均, '写真測量学会年会(東大)(2013/05/20-21)
10. "「街てく」～建物モデリングによる街並み再現", 嶋田凌,三上絢佳,角田均, 芸術科学会東北支部研究会(青森市民ホール)(2013/07/14)
11. "触れる絵画の研究開発: 小林麗「ペリグーの街角」の立体化", 三浦元太郎,和島茂,小久保温,角田均, 芸術科学会東北支部研究会(青森市民ホール)(2013/07/14)
12. "斜め写真の活用", 和島茂,角田均, 芸術科学会東北支部研究会(秋田県民会館ジョイナス)(2013/09/28)
13. "環境教育のための3次元地理情報システムの機能開発", 對馬勇太,中村開,角田均,三上一,千葉信親,坂本光,水環境学会東北支部研究発表会(東北大)(2014/01/11)
14. "3D GISによる水質の可視化と分析(I)・岩木川水系の流域可視化-", 三上一,角田均, 水環境学会年会(東北大)(2014/03/17-19)
15. "3D GISによる水質の可視化と分析(II)・岩木川水系の河川水質に及ぼした公共下水道の影響-", 三上一,角田均, 水環境学会年会(東北大)(2014/03/17-19)
16. "斜め写真の大気効果の自動除去", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成26年度年次学術講演会(東京大学生産技術研究所)(2014/05/22)
17. "小学生向け環境学習用クラウドアプリの開発", 大沢凌平,小久保温,角田均日本水環境学会第2回東北支部研究発表会(東北工業大)(2015/01/10)
18. "環境学習用Webアプリの開発と小学生による尾駈沼環境調査のマッピング",大沢凌平,小久保温,角田均,三上一,他, 第49回水環境学会年会(金沢大)(2015/03/17)
19. "小学生による水環境健全指標を用いた尾駈沼の環境調査",大沢凌平,小久保温,角田均,三上一,他, 第49回水環境学会年会(金沢大)(2015/03/17)
20. "学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発", 小久保温・角田均・伊藤匠・織田将史・三上絢佳・今北斗・柏谷至・工藤雅世・坂田令, 平成26年度情報処理学会全国大会, (京都大学)(2015.3.18)
21. "A 親水公園水質調査データのマッピングと視覚化", 大沢遼平・角田均・小久保温・滝本麻理奈(日本大学大学院)・三上一((元)青森環境管理事務所), 平成27年度情報処理学会東北支部研究会、2016年2月19日、弘前大学
22. "水環境健全性指標の可視化のためのWebアプリケーションの開発", 澤田洋二・大沢遼平・小久保温・角田均・三上一, 平成27年度日本情報処理学会全国大会(慶応大学)(2016.3.10)
23. "「発達障害を持つ子供の生活訓練のためのゲーミフィケーション・アプリケーション」、新宅伸啓・伊藤真也・角田均・小久保温・田中志子・柏谷至・工藤雅世・坂田令, 平成27年度日本情報処理学会全国大会(慶応大学)(2016.3.10)
24. "発達障がい児のための生活支援アプリケーションの開発 ―ゲーミフィケーションの活用と考察―", 新宅伸啓・伊藤真也・小久保温・角田均・田中志子・柏谷至・工藤雅世・坂田令 (株式会社リンクステーション), 平成27年度第4回芸術科学会東北支部研究会、ワ・ラッセ(青森市)(2016.03.26)
25. "太宰の見た青森 ―失われた街並みの再創造―", 工藤貴裕・坂本一吉・角田均・和島茂・工藤雅世, 平成27年度第4回芸術科学会東北支部研究会、ワ・ラッセ(青森市)(2016.03.26)

[研究費の取得状況]

1. "3次元地理情報システムによる自然学習の高度化", 角田均, 公益財団法人日本教育公務員弘済会青森支部, 20千円(2013年度)
2. "行動変容のための自己マネジメント促進ポイントシステムの構築と活用", 角田均, 他, 平成26年

度青森大学教育研究プロジェクト, 226 千円(2014 年度)

3. "タブレット端末とクラウドシステムを利用した発達障害の児童向け生活訓練サポートシステムの開発", 角田均、他, 大川情報通信基金研究助成金, 1,000 千円(2016 年度)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. "地域情報プラットフォーム「デジタル青森」の開発と応用", ブロードバンド活用による地域活性化シンポジウム(2010 年 3 月 17 日, 青森国際ホテル)
2. "ネットワーク社会で安全に暮らす知恵", 山田高校修養会(十和田おいらせ荘)(2011/8/30)
3. "セカイをつなげる情報技術", 三沢商業高校講演会(2011/8/31)
4. "人間とコンピュータの未来", 商業部会高大連携事業による講演会, 黒石商業高校(2012/9/3), 青森商業高校(2012/10/2)
5. "3 次元地理情報システム「デジタル青森」とその周辺", 角田均, 青森大学学術研究会秋季教員研究発表会(青森大学)(2012/12/05)
6. "ネットワーク社会で「安全」に暮らす知恵", 出張講義, 弘前第五中学校(2013/01/08)
7. "社会を支える情報技術", 商業部会高大連携事業による講演会, 青森商業高校(2013/07/17)
8. "小学生による水辺のすこやかさ指標を用いた尾駁沼の水環境評価と地理情報システムの活用について", 大沢凌平, 小久保温, 角田均, 三上一, 他, 平成 26 年度日本水環境学会東北支部セミナー(宮城県仙台市宮城野区文化センター)(2014/12/10)
9. "尾駁沼の秘密を探る", 松山勉, 大沢凌平, 角田均, 小久保温, 三上一, 平成 26 年度上北地方小学校教育研究会生活科・総合部会冬季研修会(2015/01/07)
10. 地理情報システムによる水環境可視化について, 角田均, 平成27年度水環境学科東北支部ワークショップ, 東北工業大学一番町ロビー(2016/02/27)

[学内各種委員]

1. 教務委員会(2010 年 - 2016 年)
2. 情報・IT 委員会(2010 年 - 2016 年、副委員長)
3. FD 委員会(2013 年 - 2016 年、副委員長)

[学外各種委員]

1. 芸術科学会東北支部 幹事

氏名 堀端 孝俊 (HORIBATA Takatoshi)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1949 年 9 月 16 日

[履歴]

[学歴]

1974 年 3 月 東京理科大学卒業

1980 年 3 月 東京都立大学理学研究科博士課程 (物理学専攻) 単位取得満期退学

[学位]

理学博士

[職歴]

1982 年 8 月 東京大学原子核研究所研究員

1983 年 7 月 チュービンゲン大学研究員

1985 年 10 月 日本ユニシス株式会社

1991 年 10 月 青森大学工学部開設準備室嘱託

1992 年 4 月 青森大学工学部助教授(情報システム工学科)

1992 年 4 月 理化学研究所共同研究員(兼任)

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部教授

[所属学会]

日本物理学会会員

情報処理学会正会員

[教育活動]

[担当科目]

解析学 I 1 学年 (必修)

解析学 II 1 学年 (選択)

基礎ゼミナール A 1 学年 (必修)

基礎ゼミナール B 1 学年 (必修)

ソフトウェア情報学概論 1 学年 (共同担当、必修)

デジタル回路 1 学年 (必修)

人工知能 3 学年 (選択)

数学科教育法 III 3 学年 (選択)

創作ゼミナール I, II 3 学年 (必修)

卒業研究 4 学年 (必修)

[卒業研究指導]

2006 年 : 1 名 8 パズルプログラムの改良

2007 年 : 2 名 8 パズル GUI プログラムの改良、反復深化 A*アルゴリズムによる
15 パズル評価関数の性能評価

2008 年 : 2 名 反復深化 A*アルゴリズムの評価関数の改良

2009 年 : 1 名 15 パズルのパターンデータベースにおけるハッシュテーブルの利用

2013 年 : 1 名 順列得点法の 15 パズルへの適用

2014 年 : 2 名 15 パズルにおけるフリンジパターン、24 パズルにおける順列得点

[ゼミ指導]

1. 基礎ゼミナールにおいて解析学の授業の予習・復習を実施しており、授業に関心を示す学生が増えている。

[教育指導に関する特記事項]

1, 「8パズル探索過程の可視化ツールの開発」

本学において、長年「人工知能」の講義を担当している。講義の目標は、状態空間の記述とその探索手法の理解にあり、特に、知識にもとづく効率的探索アルゴリズムの修得が主要な到達目標である。最近8パズルを使った講義の有効性について考えている。とくに最良優先探索や、A*アルゴリズムなどの探索法を学ぶには、きわめてわかりやすい題材である。今までは、この推論の仕組みをコンピュータプログラムの流れで説明してきたが、プログラミングが苦手な学生にとっては、このあたりがつかずきの原因になっていたように思える。そこで、ソフトウェアの動作を視覚に訴えることで、理解が深まらないかと考え教育改善に着手した。8パズルの探索過程を視覚化するツールを卒業研究で開発したが、このツールにより駒の動きの規則性に気がつき、結果として新しい評価関数を見つけることができた。教育の成果は研究論文として公表した(学術論文(2))

2, ここ数年、推薦で入学予定の生徒を対象に数学基礎力の入学前教育を担当している。答案をできるだけ丁寧に添削し、スムーズな大学教育への移行の実現に努めている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) n2

-1 パズル評価関数の性能評価

(2) 原子核回転運動の記述

[著書、論文、総説]

著書

1. 湯田春雄,堀端孝俊 共著「しっかり学べる基礎デジタル回路」森北出版,2006年2月初版発行,2014年1月第5刷発行,A5版208頁.

学術論文

1. Y.Hashimoto and T.Horibata, Stability of s-band states in the tilting calculation of 182Os, Physical Review C74 (2006) 017301(4-pages).

2. 堀端孝俊,坂井雄介,8パズル盤面の距離情報と新評価関数 -マンハッタン距離を科学する-,コンピュータ教育学会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol.21 (2006)78-83.

3. T. Horibata, Y.Sakai and O.Yamamoto, Efficient Cost Functions for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm based on the Statistics of Distribution of Tiles, Information Vol.10 (2007) 123-130.

4. Y.Hashimoto and T.Horibata, Wobbling motions in 182Os expected through the generator coordinate method based on the three-dimensional cranked HFB, Information Vol.10 (2007) 199-207.

5. Y.Hashimoto and T.Horibata, Tilted axis rotation and t-band in 182Os with the three-dimensional cranked Hartree-Fock-Bogoliubov method, European Physics Journal A 42 (2009) 571-575.

6. Y.Hashimoto and T.Horibata, A description of t-band in 182Os within the fully microscopic calculation, Information Vol.13 (2010) 569-575.

7. Y.Hashimoto and T.Horibata, A description of t-band in 182Os with generator coordinate method, Information Vol.17 (2014) 429-434.

国際会議 Proceedings

1. T. Horibata, Y.Sakai and O.Yamamoto, A New Cost Function for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm, Proceedings of the Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork (2006) 122-125.

2. Y.Hashimoto and T. Horibata, Possible excitations of the wobbling motion in 182Os based on the three-dimensional cranked HFB, Proceedings of the Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork (2006) 118-121.

3. Y.Hashimoto and T. Horibata, Possible mechanism of the t-band based on the fully microscopic calculation, Proceedings of the Fifth International Conference on Information, Kyoto (2009) 87-90.

4. Y.Hashimoto and T. Horibata, Quantum mechanical effects in tilted axis rotation in 182Os, Proceedings of the JCNP2009, Tsukuba (2010).

5. Y.Hashimoto and T. Horibata, Study of t-band in 182Os with cranked three-dimensional Hartree-Fock-Bogoliubov method, Proceedings of the Sixth International Conference on Information, Tokyo (2013) 484-487.

研究報告書

1. Y.Hashimoto and T. Horibata, Study of nuclear Structure Change in Framework of 3D-CHFB+GCM, RIKEN Accelerator Progress Report 39 (2006) 30.

2. Y.Hashimoto and T. Horibata, Tilted-axis rotation and wobbling motion on 3D-CHFB states, RIKEN Accelerator Progress Report 40 (2007) 56.

3. Y.Hashimoto and T. Horibata, GCM description of rotational motions in 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 41 (2008) 42.

4. Y.Hashimoto and T. Horibata, t-band and tilted axis rotation in 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 42 (2009) 55.

5. Y.Hashimoto and T. Horibata, Investigation of t-band in 182Os by GCM, RIKEN Accelerator Progress Report 43 (2010) 57.

6. Y.Hashimoto and T. Horibata, GCM amplitude in t-band for 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 44 (2011) 45.

講演 (国際会議講演、ポスター発表など)

1. "Stability of g- and s-bands in 182Os in three-dimensional cranked HFB"(共著者発表), Methods of many-body systems: mean field theories and beyond, RIKEN, March 2006.

2. "A New Cost Function for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm"(Oral presentation), The Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork, August 2006.

3. "Possible excitations of the wobbling motion in 182Os based on the three-dimensional cranked HFB"(共著者発表), The Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork, August 2006.

4. "Tilted axis rotation and wobbling motion in the framework of three-dimensional cranked HFB" (Poster presentation). The 23rd International Nuclear Physics Conference (INPC2007), Tokyo, June 3-8, 2007.

5. 「8パズル盤面の距離情報と新評価関数」青森大学学術研究会春期教員発表会, 青森, July 2007.

6. "GCM description of rotational motions in 182Os" (Poster presentation). The Nuclear structure 2008(NS2008), Michigan, June 3-6, 2008.

7. "Tilted axis rotation and t-band in 182Os with the three-dimensional cranked Hartree-Fock-Bogoliubov method" (Poster presentation). The Fifth International Conference on Exotic Nuclei and Atomic Masses(ENAM'2008), Ryn, Poland, September 7-14, 2008.

学内報告書

1. 堀端孝俊, 山本修身, 坂井雄介 盤面の数理, 青森大学研究紀要第 29 巻第 2 号 (2006)39-51.

2. 堀端孝俊, 木村容秀, 山本修身 反復深化 A*アルゴリズムによる 15 パズルにおける新評価関数の性能評価, 青森大学研究紀要第 30 巻第 3 号(2008)63-78.

[学会発表]

1. GCM による 182Os の TAR モードの計算 日本物理学会 2007 年 9 月 北海道大学

2. 182Os における傾斜角回転に対応するバンド状態 日本物理学会 2008 年 3 月 近畿大学

3. 182Os における傾斜角回転状態の一粒子構造 日本物理学会 2008 年 9 月 山形大学

4. 182Os における TAR 状態と t-バンド 日本物理学会 2009 年 3 月 立教大学

5. HFB+GCM による 182Os の t-バンドの構造 日本物理学会 2010 年 3 月 岡山大学

[その他の活動]

2006 年 論文査読委員 : FIZIKA A & B (Zagreb CROATIA)

[学内各種委員] (ここ数年を担当した委員)

全学教務委員会委員

入試選抜委員会委員

入試作題委員会委員

公務員受験対策講座委員会委員

留学生支援委員会委員

教員評価制度委員会委員

学生募集連絡会議委員

[学外各種委員]

2006 年以降 学術誌 Information Editorial Board 編集委員(2004 年就任)

2006 年 国際会議"Information-MFCSIT'06" 組織委員

2009 年 国際会議"Information07" 組織委員

2008 年以降 県立青森工業高等学校 学校評議員

2009 年以降 弘前大学非常勤講師

2009 年以降 青森市立高等看護学員非常勤講師

氏名 緑川 章一 (MIDORIKAWA Shoichi)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職種 教授
生年月日 1951年5月15日

[履 歴]

[学 歴]

1974年3月 東北大学理学部物理学第2学科卒業
1979年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻修了

[学 位]

理学博士

[職 歴]

1979年4月 東京大学原子核研究所教務補佐員
1980年4月 日本学術振興会奨励研究員
1981年4月 京都大学基礎物理学研究所教務補佐員
1983年4月 京都大学基礎物理学研究所非常勤講師
1986年4月 明治大学兼任講師
1989年4月 北里大学非常勤講師
1994年4月 青森大学工学部助教授
2007年4月 青森大学ソフトウェア情報学部教授

[所属学会]

日本物理学会、米国物理学会、情報処理学会、米国電気電子学会、
IEEE Computer Society

[教育活動]

[担当科目]

確率・統計、CG基礎数学、数学科教育法Ⅲ、
プログラミングワークショップⅠ、プログラミングワークショップⅡ、
ソフトウェア情報学概論、創作ゼミナールⅠ、創作ゼミナールⅡ

[卒業研究指導]

2006年卒業研究： 5名
2007年卒業研究： 3名
2008年卒業研究： 2名
2009年卒業研究： 4名
2010年卒業研究： 2名
2011年卒業研究： 4名
2012年卒業研究： 3名
2013年卒業研究： 1名
2014年卒業研究： 3名
2015年卒業研究： 3名
2016年卒業研究： 4名

[ゼミ指導]

2006年 基礎ゼミⅢ： 10名
2007年 基礎ゼミⅢ： 10名
創作ゼミナール： 4名
2008年創作ゼミナール： 2名

2009年創作ゼミナール：	1名
2010年創作ゼミナール：	4名
2011年創作ゼミナール：	3名
2012年創作ゼミナール：	1名
2013年創作ゼミナール：	3名
2014年創作ゼミナール：	3名
2015年創作ゼミナール：	4名
2016年創作ゼミナール：	2名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, CG-Arts 検定試験支援のため、補講を行っている。
- 2, 青森の文化遺産のデジタル化のために、三内丸山遺跡、弘前城、八甲田丸、斜陽館、盛美園、A-factory の実地調査を行い、その結果を公開している。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 素粒子物理学
- (2) コンピュータグラフィックス

[著書、論文、総説]

- 1, [Sanuki, T](#), [Honda, M](#), [Kajita, T](#), [Kasahara, K](#), [Midorikawa, S](#), Study of cosmic ray interaction model based on atmospheric muons for the neutrino flux calculation, Phys.Rev.D75:043005-1 - 043005-17(2007)
- 2, [Honda, M](#), [Kajita, T](#), [Kasahara, K](#), [Midorikawa, S](#), [Sanuki, T](#), Calculation of atmospheric neutrino flux using the interaction model calibrated with atmospheric muon data, Phys.Rev.D75:043006-1 - 043006-26(2007)
- 3, [Honda, M](#), [Kajita, T](#), [Kasahara, K](#), [Midorikawa, S](#). Improvement of low energy atmospheric neutrino flux calculation using the JAM nuclear interaction model, Phys.Rev. D83 (2011) 123001.
- 4, [Sajjad Athar, M](#), [Honda, M](#), [Kajita, T](#), [Kasahara, K](#), [Midorikawa, S](#). Atmospheric neutrino flux at INO, South Pole and Pyhasalmi, Phys.Lett. B718 (2013) 1375-1380
- 5, [Honda, M](#), [Sajjad Athar, M](#), [Kajita, T](#), [Kasahara, K](#), [S. Midorikawa, S](#). **Atmospheric neutrino flux calculation using the NRLMSISE-00 atmospheric model**, Phys.Rev. D92 (2015) no.2, 023004.

[学会発表]

- 1, 坂井雄介, 上谷彊輔, 緑川章一, 角田 均, 小久保 温, 石田 努, 石澤美智代, 佐藤篤史, 産学連携による実践的ソフトウェア開発教育の取組み、情報処理学会東北支部研究会 2008年1月、岩手大学

[その他の活動]

東京大学宇宙線研究所共同研究員

[学内各種委員]

入試管理委員会

氏名 雪田 一(YUKITA Hitoshi)

所属 ソフトウェア情報学部

職種 教授

生年月日 1953年4月25日

[履歴]

[学歴]

1978年3月 千葉工業大学工学部卒業

[学位]

工学士

[職歴]

1978年4月 青森県立むつ工業高等学校教諭 (1983年3月まで)

1983年4月 青森県立青森商業高等学校教諭 (1986年3月まで)

1986年4月 青森県立青森南高等学校教諭 (1995年3月まで)

1995年4月 青森高等学校教諭 (2006年4月まで)

2006年4月 青森県立五所川原農林高等学校教頭 (2009年3月まで)

※企業エクспレス研修 富士電機ホールディングスに1年間企業派遣
(2008年4月～2009年3月 人事企画・海外営業等)

2009年4月 青森県立八戸水産高等学校校長 (2011年3月まで)

2011年4月 青森県立青森中央高等学校校長 (2014年3月定年退職)

2014年4月 青森山田高等学校校長 (青森山田中学校校長兼務)

2015年4月 青森大学事務局参与

2016年4月 青森大学ソフトウェア情報学部教授
(青森山田学園情報教育センター長兼務)

[教育活動]

[担当科目]

教育課程論、地域貢献演習、数学科教育法、薬学部リメディアル教育

[教育指導に関する特記事項]

アクティブラーニング(能動的学習)の手法を積極的に取り入れ、学修者の論理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

[研究活動]

[研究テーマ]

学校教育活動における数学教育の在り方

[著書、論文、総説]

高等学校精説数学Ⅲ (文科省検定教科書・桐原書店) 共著

氏名 李 孝烈 (LEE, Hyor Yol)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授、就職部長

生年月日 1952 年 3 月 21 日

[履歴]

[学歴]

1976 年 3 月 東京都立大学理学部物理学科卒業

1982 年 3 月 東京都立大学理学研究科物理学専攻博士課程修了

[学位]

理学博士 1982 年 東京都立大学

[職歴]

1985 年 4 月 東京工業大学一般教育教務補佐員

1990 年 4 月 学習院大学理学部物理学科助手

1992 年 4 月 筑波研究学園専門学校

1996 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助教授

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教授

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授

2012 年 4 月 青森大学就職部長

[所属学会]

日本オペレーションズリサーチ学会

情報処理学会

日本物理学会

[教育活動]

[担当科目]

オペレーションズリサーチ、キャリアデザイン II、
幾何学、物理学 II、コンピュータシミュレーション、
ソフトウェア情報学特講 I および II、創作ゼミナール I および II
インターンシップ

[卒業研究指導]

2011 年度卒業研究：1 名

2012 年度卒業研究：2 名

2013 年度卒業研究：2 名

[ゼミ指導]

2011 年度創作ゼミナール：2 名

2012 年度創作ゼミナール：2 名

2013 年度創作ゼミナール：1 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 就職委員会を主宰して、就職課との協力のもと、学生の就職支援を進めた。ゼミ担当教員との連携による 4 年生に対する個別面談、3 年生向け就職ガイダンスの実施、年間 2 回の企業セミナーなど、重点的に実施した。
2. 青森大学基礎スタンダードの一環として、学生が自らの生き方や働くことの意義について考える講義「キャリアデザイン」の内容を担当者全員と協力して構成し、実施した。
3. 情報処理国家試験（基本情報技術者試験）合格支援のための「ソフトウェア情報学特講」を担当して、全体の構成およびスケジュールを作成した。さら

に補講を行い、毎年合格者を出した。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) オペレーションズリサーチ、組合せ最適化
- (2) ネットワーク上の確率モデルに関する研究

[紀要、各種報告書]

1. 李 孝烈、グラフ上のランダムウォーク、青森大学研究紀要第 31 巻第 2 号 (2008 年 11 月) 79-92.
2. 李 孝烈 (共著)、ウェブ検索における重要度計算、青森大学研究紀要第 32 巻第 3 号 (2010 年 2 月) 75-108.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 李 孝烈、グラフ上のランダムウォーク、青森大学ソフトウェア情報学科、学科セミナー (2008 年 6 月)
2. 李 孝烈、ウェブ検索における重要度計算の数理について、青森大学教員免許状更新講習 (2009 年 7 月)

[学内各種委員]

20012-13 年度：就職委員、学科資格取得対策委員、学科創作ゼミナール担当委員

氏名 ケチャスン ワード (KETCHESON Ward)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1954 年 1 月 4 日

[履歴]

[学歴]

May 1979 Graduated: University of Winnipeg, Bachelor of Arts

May 1984 Graduated: College-Universitaire de St.Boniface, Bachelor of Education

[学位]

Bachelor of Arts (English)

Bachelor of Education (French)

[職歴]

1984-86 French teaching for Portage la Prairie School Division and Winnipeg School Board.

1986-87 French teaching in the French Immersion program at O'Kelly School in Shilo, Manitoba

1987-88 English and French teaching for the Vancouver School Board.

1988-96 French teaching in the French Immersion program at Ecole Brackendale Secondary School in Brackendale, B.C.

1997-98 Taught conversational English at James Language School in Aomori City.

1998-99 Taught English at Yamada High School and Aomori University

1999- English and French teaching at Aomori University. (講師)

2007 Aomori University: Associate Professor (准教授)

[所属学会]

東北英文学会、Japan Association of Language Teachers (J.A.L.T.)

[教育活動]

[担当科目]

英語 I,II (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学部)

英語 IV (薬学科)、英会話 A,B,I,II, フランス語 IA, IB

[教育指導に関する特記事項]

1 Collaborated on a Foreign Languages Team Teaching lecture with first year students as part of

Aomori University's Standards Program. Theme was "Cross Cultural Customs".

2 Students came to do "make up" tests.

3 Tutored students on spoken English, Eiken and TOEIC tests.

4 Tutored students on French studies.

5 Made French IA,IB students aware and offered assistance for the French Proficiency Test 2013.

5 In 2002-2007, worked as an invigilator on the (仏検) French Proficiency Test.

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) Japan's Modernization or Westernization in the Meiji era.

(2) Was Japan's Militarization of the 1930s Inevitable?

[著書、論文、総説]

1, Ketcheson, Ward: Quick Training for the TOEIC TEST, Cengage Learning, Dec. 2007

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1 About Canada, 2007年11月、青森市中央民センタ

[学内各種委員]

1 国際交流委員会

[学外各種委員]

1 青森市の Japan Blues Festival の委員(2006,2007)

氏名 ケチャスン ワード (KETCHESON Ward)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1954 年 1 月 4 日

[履歴]

[学歴]

May 1979 Graduated: University of Winnipeg, Bachelor of Arts

May 1984 Graduated: College-Universitaire de St.Boniface, Bachelor of Education

[学位]

Bachelor of Arts (English)

Bachelor of Education (French)

[職歴]

1984-86 French teaching for Portage la Prairie School Division and Winnipeg School Board.

1986-87 French teaching in the French Immersion program at O'Kelly School in Shilo, Manitoba

1987-88 English and French teaching for the Vancouver School Board.

1988-96 French teaching in the French Immersion program at Ecole Brackendale Secondary

School in Brackendale, B.C.

1997-98 Taught conversational English at James Language School in Aomori City.

1998-99 Taught English at Yamada High School and Aomori University

1999- English and French teaching at Aomori University. (講師)

2007 Aomori University: Associate Professor (准教授)

[所属学会]

東北英文学会、Japan Association of Language Teachers (J.A.L.T.)

[教育活動]

[担当科目]

英語 I,II (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学部)

英語 IV (薬学科)、英会話 A,B,I,II, フランス語 IA, IB

[教育指導に関する特記事項]

1 Collaborated on a Foreign Languages Team Teaching lecture with first year students as part of

Aomori University's Standards Program. Theme was "Cross Cultural Customs".

2 Students came to do "make up" tests.

3 Tutored students on spoken English, Eiken and TOEIC tests.

4 Tutored students on French studies.

5 Made French IA,IB students aware and offered assistance for the French Proficiency Test 2013.

5 In 2002-2007, worked as an invigilator on the (仏検) French Proficiency Test.

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) Japan's Modernization or Westernization in the Meiji era.

(2) Was Japan's Militarization of the 1930s Inevitable?

[著書、論文、総説]

1, Ketcheson, Ward: Quick Training for the TOEIC TEST, Cengage Learning, Dec. 2007

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1 About Canada, 2007 年 11 月、青森市中央民センタ

[学内各種委員]

1 国際交流委員会

[学外各種委員]

1 青森市の Japan Blues Festival の委員(2006,2007)

氏名 小久保 温 (KOKUBO Atsushi)

所属 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

職種 准教授

生年月日 1968年2月22日

[履 歴]

[学 歴]

1990年3月 東京理科大学理学部第I部物理学科卒業

1992年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻博士課程前期2年の課程修了

1996年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻博士課程後期3年の課程修了

[学 位]

博士(理学)

[職 歴]

1996年1月 郵政省認可法人通信・放送機構国内招へい研究者として、東北大学 加齢医学研究所加齢脳・神経研究部門機能画像医学研究分野に勤務

1997年4月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2004年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2009年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授(現職)

[所属学会]

日本物理学会、情報処理学会

[教育活動]

[担当科目]

2015年度

情報リテラシー、プログラミング演習I・II、画像処理、コンピュータグラフィックス演習、Webデザイン、創作ゼミナールI・II、卒業研究、ソフトウェア情報学特講II・III、人間と文化

[卒業研究指導]

2015年度: 2人

[ゼミ指導]

2015年度

創作ゼミナールI: 2人

創作ゼミナールII: 2人

[教育指導に関する特記事項]

1. アクティブ・ラーニングへの取組

青森大学では2013年度から、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた青森大学基礎スタンダードというカリキュラムをはじめた。2013年度から、青森大学基礎スタンダード科目の「人間と文化」を担当し、青森と情報技術に関するアイデアソン(アイデアをグループ・ディスカッションで創出する実習)を中心とした授業を展開している。

2. 地域連携による学生の就業意識の醸成とオープンデータ啓発活動

2013年度に青森県商工労働部新産業創造課により、新時代ITビジネス研究会が設立された。新時代ITビジネス研究会のIT人財定着部会に所属し、地域で情報技術を学んだ学生が地域で活躍できるように支援する活動を行なっている。また、オープンデータ活用検討部会に協力し、2月21日に開催された全世界イベントInternational Open Data Day 2015に青森から青森大学を会場に学生の運営で参加した。

[研究活動]

[研究テーマ]

2015 年度

- 1.WebGL / CSS3 による全天球パノラマ画像表示システム ThetaViewer
- 2.自然観察記録の Web 公開のための地図クラウド・プラットフォーム
- 3.自己管理のためのゲーミフィケーション・クラウド・プラットフォーム
- 4.PC、携帯、スマートフォン、タブレット端末に対応した Web 社会調査システム
- 5.地域コミュニティ活性化のためのタスクと地域通貨の交換プラットフォーム
- 6.海外をターゲットとした日本の商品の Web マーケティング
- 7.オープンデータの活用

[研究資金等]

2014 年度

- 1.小久保温、吉村治正(奈良大学)、渡部諭(秋田県立大学)、電気通信普及財団「インターネット社会調査と多様化する情報端末～スマートフォン、タブレット端末時代の社会調査に向けて～」、2013、2014 年度各年 60 万円ずつ
- 2.石橋修(八戸学院大学)、柏谷至、佐々木てる、田中志子、小久保温、坂井雄介、平成 25～27 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」、期間全体の直接経費 380 万円
- 3.青森大学、青森県平成 26 年度「国際ナショナル・オープン・データ・デイ運営」業務、60、000 円
- 4.澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、小久保温、平成 26 年度大川情報通信基金研究助成「CASM を応用した WEB 社会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究」、100 万円
- 5.小久保温、澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、平成 26～28 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「郵送調査と Web 調査のハイブリッド調査から完全 Web 調査への移行に関する研究」、期間全体の直接経費 360 万円

[著書、論文、総説]

2014 年度

- 1.日本脱カルト協会(JSCPR)編(小久保温共著)、『カルトからの脱会と回復のための手引き《改訂版》』、遠見書房、2014 年 11 月 5 日
- 1.小久保温、「全天球パノラマ画像ビューアーの開発」、青森大学研究紀要 第 37 巻第 3 号 pp.71-78、2015 年 2 月 1 日
- 2.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォーム AOCa の設計と実装」、青森大学附属総合研究所 紀要 第 16 巻 2 号、2015 年 3 月 31 日

[学会発表]

2014 年度

- 1.澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、小久保温、「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響:項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」、日本テスト学会 第 12 回大会、2014 年 8 月 31 日、帝京大学
- 2.大沢凌平、小久保温、角田均、「小学生向け環境学習用クラウドアプリの開発」、第 2 回日本水環境学会東北支部研究発表会、2015 年 1 月 10 日、東北工業大学
- 3.大沢凌平、三上一((元)青森県境管理事務所)、小久保温、角田均、「環境学習用 Web アプリの開発と小学生による尾駈沼環境調査のマッピング」、第 49 回日本水環境学会年会、2015 年 3 月 16 日、金沢大学
- 4.三上一((元)青森県境管理事務所)、角田均、小久保温、大沢凌平、「小学生による水環境

健全性指標を用いた尾駮沼の環境調査について」、第 49 回日本水環境学会年会、2015 年 3 月 17 日、金沢大学

5.小久保温、澁谷泰秀、柏谷至、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、3F-01「ウェブ社会調査におけるデバイスによる反応の相違に関する研究」、情報処理学会 第 77 回全国大会、2015 年 3 月 18 日、京都大学

6.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、3F-05「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発」、情報処理学会 第 77 回全国大会、2015 年 3 月 18 日、京都大学

7.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生の自己管理のためのゲーミフィケーションの取り組み」、平成 26 年度 第 4 回芸術科学会東北支部研究会、2015 年 3 月 28 日、日本大学工学部 [公開講座、講演、セミナー]

2014 年度

1.小久保温、パネル「オープンデータ活用検討部会活動報告」、オープンデータ活用推進フォーラム 2015、2015 年 1 月 13 日

2.青森大学、株式会社リンクステーション、「セルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーション」、平成 27 年度青森 IT ビジネス・マッチング交流会、2015 年 2 月 13 日

[学内各種委員]

2015 年度

総合研究所学際情報研究班班員

FD 委員

入試選抜委員

学生募集委員

情報・IT 委員

[学外各種委員]

2015 年度

青森県オープンデータ検討委員会 委員長

青い森地域創造基金 評議員

氏名 坂井 雄介 (SAKAI Yuusuke)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1968 年 3 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1990 年 3 月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業

1992 年 3 月 東京農工大学大学院工学研究科電子情報工学専攻修了

1994 年 3 月 東京農工大学大学院工学研究科電子情報工学専攻中途退学

[学位]

工学修士

[職歴]

1994 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2002 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2009 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

[所属学会]

情報処理学会、日本工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

地域貢献基礎演習、地域貢献演習、プログラミングワークショップ I・II、コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、ソフトウェア設計、創作ゼミナール I・II、卒業研究

[卒業研究指導]

2011 年度卒業研究： 4 名

2012 年度卒業研究： 1 名

2013 年度卒業研究： 4 名

2014 年度卒業研究： 4 名

2015 年度卒業研究： 3 名

[ゼミ指導]

2011 年度創作ゼミナール： 1 名

2012 年度創作ゼミナール： 4 名

2013 年度創作ゼミナール： 3 名

2014 年度創作ゼミナール： 3 名

2015 年度創作ゼミナール： 3 名

[教育指導に関する特記事項]

特になし

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) マンマシンインタフェース

[著書、論文、総説]

1. 上谷彊輔ほか：3次元地理情報システム「デジタル青森」の開発と応用、青森大学研究紀要 Vol.32, No.3

[学会発表]

1. 角田均ほか：3次元地図の高速表示システムの開発と応用、情報処理学会全国大会、2010年3月、東京大学

[研究費の取得状況]

1. 科学研究費助成事業「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」(研究分担者、平成25年度～平成27年度)

[その他の活動]

[学内各種委員]

1. 学習支援センター 運営委員・センター員 (平成25年度9月～)

2. 自己点検評価・認証評価審査対策委員 (平成27年度～)

3. 情報・IT委員 (平成22年度～)

[学外各種委員]

無し

氏名 白岩 貢 (SHIRAIWA Mitsugu)

所属 ソフトウェア情報学部

職種 准教授

生年月日 1965年10月1日

[履 歴]

[学 歴]

1988年3月 玉川大学文学部芸術学科音楽専攻卒業

1989年3月 大東音楽アカデミーディプロマコース修了

1997年7月 ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院修士課程歌曲解釈科修了

[学 位]

文学士(玉川大学) 芸術修士(カールスルーエ音楽大学)

[職 歴]

1989年 大東学園高等学校(東京都世田谷区) 教諭

1991年 大東学園専門学校専任講師

1994年 大東学園高等学校教諭

1999年 青森山田高等学校教諭 兼青森大学・青森短期大学非常勤講師

2003年 青森短期大学専任講師 兼青森大学非常勤講師

2009年 青森短期大学准教授

2012年 青森大学ソフトウェア情報学部准教授

[受 賞]

1992年 第5回国際芸術連盟新人オーディション奨励賞受賞

1996年 第1回JIRA音楽コンクール入選

1998年 第3回JIRA音楽コンクール第三位

2000年 1999年度国際芸術連盟音楽賞受賞

2001年 友愛ドイツ歌曲コンクール入選

[所属学会]

日本演奏連盟

[教育活動]

[担当科目]

芸術(音楽)、英語IA・IB・IIA・IIB、ドイツ語IA・IB・IIA・IIB、学問のすすめ、基礎演習、社会と環境、キャリアデザインIA・B、就職活動実践演習IA、地域貢献基礎演習、地域貢献演習

[教育指導に関する特記事項]

芸術においてはさまざまなジャンルの音楽に親しむことを目的として舞台芸術を中心に鑑賞教育と楽典の基礎、音楽史を中心に教育にあたる。

語学教育では学生の親しみやすいミュージカルや映画をテーマに、語彙力の強化、リスニング能力の向上に努める。また、ドイツ留学やアメリカ文化の修得をもとに異文化の紹介を中心として、外国語へのハードルを少なくするための講義を心掛けている。

基礎演習、地域貢献基礎演習では声の出し方、話し方を中心に、コミュニケーションに役立つ発声法を教授。地域貢献演習では青森市民第九の会への参加を通して地域文化の向上に寄与する人材を育成する。

[研究活動]

[研究テーマ]

ドイツリート of 演奏と紹介

親しみやすいコンサートの形式

舞台芸術（オペラ、ミュージカル）の演技と歌唱

【その他の活動】（2010年以降）

- 2010年2月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「冬の旅」（横浜市イギリス館）
- 2010年3月 県病ふれあいコンサート「抒情歌と愛唱歌の夕べ」（青森県立中央病院）
- 2010年2月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「冬の旅」
（青森市男女共同参画プラザ）
- 2010年7月 ミッド・オイローパ特別コンサート・ソリスト（オーストリア）
- 2010年8月 木造高校銀杏ヶ丘同窓会・ミニコンサート（つがる市松の館）
- 2010年11月 中馬昌代&相馬直子ジョイントコンサート・ゲスト出演（弘前市藤田記念庭園）
- 2010年11月 サロンコンサート・イン・シュトラウス「ウィーンの名曲を集めて」
（青森市シュトラウス）
- 2010年12月 愉快的コンサート「世界と日本の名曲を集めて」
（十和田市民文化センター視聴覚ホール）
- 2010年12月 第10回国際文化交流の夕べ「白岩貢&秦江里奈ジョイントコンサート」
（島根県立大学）
- 2011年2月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「シューマンとヴォルフを歌う」
（横浜市イギリス館）
- 2011年3月 吉田信子&白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル
（青森市男女共同参画プラザ）
- 2011年5月 ぶらっとブラームス「気軽に楽しむピアノソロとアンサンブルのひとつとき」
（旧東京音楽学校奏楽堂）
- 2011年5月 県病ふれあいコンサート「海と愛を歌う」（青森県立中央病院）
- 2011年7月 リスト&マーラー記念の年に寄せて
「畑山扶美子&白岩貢&小木曾美津子ジョイントコンサート」
（日暮里サニーホールコンサートサロン）
- 2011年7月 リスト&マーラー記念の年に寄せて
「畑山扶美子&白岩貢&小木曾美津子ジョイントコンサート」
（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2011年10月 愉快的コンサート「オペラとミュージカルの楽しみ」（十和田市民文化センター）
- 2011年11月 ピアノソロと歌曲の楽しみ「白岩貢&相馬直子ジョイントコンサート」
（青森市シュトラウス）
- 2011年11月 2011音楽力8〜相馬直子ピアノリサイタル・ゲスト出演（下北文化会館）
- 2012年1月 2012ニューイヤーコンサート「歌曲とオペラ〜歌謡曲まで」（青森市恵比須屋）
- 2012年3月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「美しき水車小屋の娘」
（青森市男女共同参画プラザ）
- 2012年3月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「美しき水車小屋の娘」（横浜市イギリス館）
- 2012年4月 長島剛子&白岩貢&梅本実リトリサイタル
「色とりどりのドイツリートを楽しむ」（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2012年6月 2012全国骨髄バンクボランティアの集い in 青森・ミニコンサート（ホテル青森）
- 2012年9月 白岩貢名曲コンサート（弘前市喫茶れもん）
- 2012年11月 歌とピアノの音楽玉手箱（青森市男女共同参画プラザ）
- 2013年2月 第8回歩いて楽しむ小春通り祭「白岩貢ミニコンサート」
（日本原燃サイクル情報センター）
- 2013年2月 歌で綴る名曲の旅「岡村喬生先生をお迎えして」（県民福祉プラザ）

- 2013年5月 ピアノソロとリートを愉しむ（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2013年7月 歌で紡ぐ男と女の恋物語「ヴォルフ作曲イタリア歌曲集全曲演奏会」
（杉並公会堂小ホール、青森市男女共同参画プラザ AV 多機能ホール）
- 2013年7月 県病ふれあいコンサート2013（青森県立中央病院）
- 2013年9月 首都オペラ公演「ハムレット」墓堀人I役（神奈川県民ホール）
- 2013年9月 徐福来町2222周年津軽半島音楽祭（中泊町・徐福の里）
- 2013年9月 歌い継ごう童謡・唱歌 in 青森2013（ワ・ラッセ「西の広場」）
- 2013年10月 青森大学大学祭「白岩貢声楽リサイタル」（青森大学記念ホール）
- 2014年2月 東吾妻町婦人会第2回教養講座（群馬県東吾妻町コンベンションホール）
- 2014年3月 市民オペラ「夕鶴」運ず役（青森市ブラックボックス）
- 2014年5月 ライオンズクラブ国際協会年次大会ミニ・コンサート（ホテル青森）
- 2014年6月 青森商工会議所女性会総会ミニ・コンサート（ホテル青森）
- 2014年8月 真夏の昼の夢～白岩貢と音楽仲間によるサロンコンサート
（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2014年8月 ギター伴奏による「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2014年8月 特別養護老人ホーム「外ヶ浜荘」ボランティアコンサート（外ヶ浜荘）
- 2014年8月 第2回中泊徐福まつり～クラシックコンサート（中泊町徐福公園）
- 2014年10月 弘前オペラ第43回定期公演「メリー・ウィドウ」サン・ブリオッシュ役
（弘前市民会館）
- 2015年1月 白岩貢&小木曾美津子リートリサイタル「白鳥の歌」全曲演奏会
（アウガ5階AV多機能ホール）
- 2015年8月 「中泊徐福まつり」～徐福交流津軽半島音楽祭（徐福の里公園イベント会場）
- 2015年9月 「青い森音楽祭2015」独・英歌曲演奏（青森市民ホール）
- 2015年9月 「白岩貢&梅本実リートリサイタル」歌曲集「冬の旅」全曲演奏会
（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2015年10月 「白岩貢&梅本実リートリサイタル」歌曲集「冬の旅」全曲演奏会
（東京オペラシティリサイタルホール）
- 2015年12月 「サロンコンサート・イン・シュトラウス」～オペラ・アリアの夕べ
（青森市シュトラウス）
- 2015年12月 「寺山修司音楽祭2015～テラヤマミュージックワールド」
（三沢市公会堂大ホール）
- 2016年2月 「春を待つ小さな音楽会」（横浜市泉区文化センター）
- 2016年3月 「春のコンサート」（県民福祉プラザ4階県民ホール）
- 2016年3月 「県病ふれあいコンサート」（青森県立中央病院）
- 2016年3月 「春一番のコンサート」（神奈川県大和市・中央林間ヤマハセンター）

【研究費の取得状況】

- 2011年7月 財団法人青森県国際交流協会助成事業
「ドイツと青森のハーモニーを楽しむ」（100千円）
- 2015年10月 公益社団法人日本演奏連盟/山田康子奨励・助成金
「シューベルト・歌曲集「冬の旅」全曲演奏会」
東京オペラシティリサイタルホール（100千円）

【公開講座、講演、セミナー】

- 2010年6月 啄木と越谷の世界「短歌と音楽の出会い」（NHK文化センター青森教室）

- 2010年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(春)
- 2011年6月 白岩貢のオペラ(歌曲)の愉しみ方(NHK文化センター青森教室)
- 2010年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(秋)
- 2011年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(春)
- 2011年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(秋)
- 2012年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(春)
- 2012年6月 レクチャーコンサート「歌曲集〈詩人の恋〉とハイネ歌曲の世界」
(NHK文化センター青森教室)
- 2012年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(秋)
- 2012年11月 大間町立大間小学校音楽教室(大間町立大間小学校)
- 2012年12月 朗読とともに楽しむ歌曲の世界「ヴォルフ・イタリア歌曲集」
(NHK文化センター青森教室)
- 2013年3月 レクチャーコンサート・イン・シュトラウス「モーツァルトのひととき」
(青森市シュトラウス)
- 2013年9月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」
- 2014年1月 レクチャーコンサート・イン・シュトラウス「シューベルトのひととき」
(青森市シュトラウス)
- 2014年10月 文学と音楽の出会い～北原白秋の歌の世界をたどって(弘前市喫茶れもん)
- 2014年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」
- 2014年11月 ミュージックパーティー～独唱、歌唱指導(埼玉県吉川市)
- 2015年6月 青森山田高等学校吹奏楽部:発声・歌唱指導
- 2015年10月 NHK文化センター青森教室一日講座「三木露風&山田耕筰の世界をたどって」
- 2015年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」
- 2015年10月 MUSIC PARTY～日・独歌曲演奏、歌唱指導
(おあしす多目的ホール～埼玉・吉川市民交流センター)
- 2015年12月 今別町立今別中学校音楽鑑賞教室
- 2016年1月 レクチャーコンサート・イン・シュトラウスIII(青森市シュトラウス)

【学外各種委員】

- 2014年8月 在宅医療市民公開フォーラム実行委員(主催:青森市医師会)
- 2015年3月 雨上がりの空に希望の虹がある青い森リサイタル実行委員
(共催:青森県女医会)
- 2015年12月 第33回青森市民第九の会・指導局委員(ドイツ語・合唱指導)

【学内各種委員】

学生委員会 ハラスメント防止対策委員会

職名 橋本 恭能 (HASHIMOTO takanori)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職名 准教授

生年月日 1970年11月8日(44歳)

【履歴】

【学歴】

1993年3月 弘前大学理学部物理学科 卒業

1995年3月 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻 修了

【学位】

修士(理学) 1995年3月 弘前大学

【職歴】

1995年4月 青森大学工学部電子情報工学科 助手

2006年4月 青森大学ソフトウェア情報学部 講師

2012年4月 青森大学ソフトウェア情報学部 准教授(現職)

【教育指導に関する特記事項】

ETロボコン2014東北地区大会(2014年9月20日)

・デベロッパー部門アドバンストクラス 総合準優勝

ETロボコン2014チャンピオンシップ大会(2014年11月19日)

・デベロッパー部門アドバンストクラス 競技部門11位

【その他の活動】

第2回 高校生科学研究コンテスト (2014年11月15日) 実行委員

【所属学会】

情報処理学会

氏名 和島 茂 (WAJIMA Shigeru)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1970 年 6 月 30 日

[履歴]

[学歴]

1993 年 3 月 弘前大学理学部物理学科卒業

1995 年 3 月 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻修了

[学位]

理学修士

[職歴]

1995 年 4 月 青森大学工学部電子情報工学科助手

2001 年 4 月 青森大学工学部電子システム工学科助手

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助手

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教

2008 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2013 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

[所属学会]

日本情報処理学会

日本写真測量学会

[教育活動]

[担当科目]

ソフトウェア情報学概論(1 年前期)

プログラミングワークショップ I(2 年前期)

プログラミングワークショップ II(2 年後期)

3D-CAD 演習(3 年前期)

情報理論(3 年後期)

創作ゼミナール I(3 年前期)

創作ゼミナール II(3 年後期)

基礎演習(1 年前期)

卒業研究(4 年通年)

[卒業研究指導]

2006 年度卒業研究 : 2 名

2007 年度卒業研究 : 4 名

2008 年度卒業研究 : 3 名

2009 年度卒業研究 : 4 名

2010 年度卒業研究 : 4 名

2011 年度卒業研究 : 3 名

2012 年度卒業研究 : 2 名

2013 年度卒業研究 : 2 名

2014 年度卒業研究 : 2 名

[ゼミ指導]

2007 年度創作ゼミナール : 2 名

2008 年度創作ゼミナール : 4 名

- 2009 年度創作ゼミナール： 3 名
- 2010 年度創作ゼミナール： 3 名
- 2011 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2012 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2013 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2014 年度創作ゼミナール： 2 名

【教育指導に関する特記事項】

1. 復習、全体像の把握に資するため、可能な科目については講義資料を Web ページにアップロードしている。
2. 学期初めに採点基準を明示して、学内向けの Web ページ上で学生の成績を随時更新し、モチベーションの喚起を促している。
3. 3 年創作ゼミナール、4 年卒業研究の個別指導のため、学生 1 名あたり週最低 2 コマ分の時間を取っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) 射影変換の応用による斜め写真の活用
- (2) 天体の運動のシミュレーションと高速表示

【著書、論文、総説】

1. 和島 茂, 「量子力学における一般相対論的效果」, 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻修士論文 (1995)
 2. Shigeru Wajima, Masumi Kasai, Toshifumi Futamase, 「Post-Newtonian effects of gravity on quantum interferometry」, Physical Review D. vol. 55. (1997) pp1964-1970
 3. 和島 茂, 「Java Applet による立体パズルの再現とその解法」, 青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要、第 30 巻第 1 号(2007)1-53.
 4. 上谷 疆輔ほか, “3 次元地理情報システム「デジタル青森」の開発と応用”、青森大学研究紀要 Vol.32 No.3 (2009) pp61-73
 5. 角田均、和島茂, 「斜め写真からの 3 次元テクスチャ生成の研究」, 日本リモートセンシング学会 第 51 回学術講演会論文集 pp.101-102, 2011 年(査読無)
 6. 石田努、小久保温、坂井雄介、角田均、メネンデス・フランシスコ、和島茂、上谷 疆輔, 「「デジタル青森」を活用した高校生セミナー —情報技術の魅力を喚起する試み—」, CIEC 研究会論文誌, vol.2, pp.105-111, 2011 年(査読有)
 7. Menendez Francisco Javier, 新谷敬、石田努、小久保温、坂井雄介、角田均、和島茂、上谷 疆輔, 「大規模地形の高速表示と 3 次元 GIS の開発」, 第 10 回 NICOGRAPH 春季大会予稿集, DVD 媒体のためページ番号なし, 2011 年(査読有)
 8. 角田均、和島茂, 「航空写真の簡易的なオルソ化と 3 次元地形テクスチャの生成」, 日本写真測量学会平成 24 年度年次学術講演会発表論文集 pp.133-136, 2012(査読無)
 9. 和島茂、角田均, 「被写体の形状・模様を用いた航空写真のオルソ化」, 日本写真測量
 10. "斜め写真の活用", 角田均,和島茂, 平成 25 年度第 2 回芸術科学会東北支部研究会研究論文(査読無)25-02-01(2013)
 11. "斜め写真からの大規模構造抽出", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成 25 年次学術講演会発表論文集(査読無)pp. 15-18(2013)
 12. "斜め写真の大気効果の自動除去", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成 26 年度年次学術講演会発表論文集(査読無)pp.1-4(2014)
- 学会平成 24 年度秋季学術講演会発表論文集 pp. 79-82, 2012(査読無)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 和島 茂、「Java Applet 等による立体パズルの再現とその自動解法」、ソフトウェア情報学科セミナー、2007 年 5 月 23 日、青森大学
2. 和島 茂、「ルービックキューブのヒューリスティックな解法」、小規模研究集会「ヒューリスティックサーチと 15 パズル」日本教育公務員弘済会、教弘会館、2008 年 8 月 19 日
3. 上谷 疆輔、角田均、小久保温、石田努、坂井雄介、和島茂、「青森をまるごとデジタル化ー「デジタル青森」プロジェクト」、大学コンソーシアム青森第 6 回ワイガヤ会、青森大学、2009 年 12 月 4 日

[学内各種委員]

2006 年度：図書委員、学術研究会委員

2007 年度：図書委員、IT 化検討会・作業部会委員、学術研究会委員

2008 年度：教務委員、IT 化検討会・作業部会委員

2009 年度：教務委員、将来計画委員、IT 化検討会・作業部会委員

2010 年度：教務委員、情報・IT 化委員

2011 年度：学生委員、情報・IT 化委員

2012 年度：学生委員、情報・IT 化委員

2013 年度：学生委員、情報・IT 化委員

2014 年度：学生委員、図書委員、情報・IT 化委員

氏名 紅林 亘 (KUREBAYASHI Wataru)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職種 助教

生年月日 1987年8月18日

[履 歴]

[学 歴]

2010年9月 埼玉大学工学部情報システム工学科卒業
2012年9月 埼玉大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
2014年9月 東京工業大学大学院情報理工学研究科博士後期課程修了

[学 位]

博士(工学) (2014年9月, 東京工業大学, 指導教員: 中尾裕也)

[職 歴]

2014年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
2014年10月 日本学術振興会特別研究員(PD)
2015年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教

[受 賞]

電子情報通信学会 学術奨励賞 (2015年3月)
電子情報通信学会 非線形問題研究会 発表奨励賞 (2014年12月)
国際会議 "2012 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications" において Student Paper Award 受賞 (2012年10月)
埼玉大学学長表彰 (2009年1月)

[所属学会]

電子情報通信学会, 日本物理学会, 日本機械学会

[教育活動]

[担当科目]

アルゴリズムとデータ構造 I・II, データベース, 創作ゼミナール I・II

[卒業研究指導]

2016年度卒業研究: 2名

[ゼミ指導]

2015年度創作ゼミナール I・II: 2名
2016年度創作ゼミナール I・II: 2名

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 非線形力学系の縮約理論の拡張とその応用研究
- (2) 力学系理論に基づくモード分解法の拡張とその応用研究

[著書、論文、総説]

1. W. Kurebayashi, S. Shirasaka and H. Nakao, "Optimal Parameter Selection for Kernel Dynamic Mode Decomposition", Proceedings of 2016 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, to appear (2016).
2. Y. Kawamura, S. Shirasaka, H. Nakao and W. Kurebayashi, "Koopman Operator

Approach to Vital Sign Detection", Proceedings of 2016 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, to appear (2016).

3. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “カーネル化された動的モード分解法のための最適なパラメータ決定法”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2016-21, pp. 13-14 (2016). (査読なし)
4. S. Shirasaka, W. Kurebayashi and H. Nakao, "Uncontrolled manifold analysis of oscillatory motions in dynamical models of body movement based on the Floquet theory", Proceedings of 2015 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 668-671 (2015). (査読あり)
5. W. Kurebayashi, S Shirasaka, and H. Nakao, “A criterion for timescale decomposition of external inputs for generalized phase reduction of limit-cycle oscillators”, Nonlinear Theory and its Applications, IEICE, Vol. 2, pp. 171-180 (2015). (査読あり)
6. W. Kurebayashi, S. Shirasaka, and H. Nakao, “Synchronization Analysis of Nonlinear Oscillators by a Quadratic Phase Model”, Proceedings of 2014 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 874-877 (2014). (査読あり)
7. K. Nishikawa, W. Kurebayashi, and H. Nakao, “Bayesian Parameter Estimation of Non-stationary Collective Dynamics in Moving Animal Groups”, Proceedings of 2014 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 882-885 (2014). (査読あり)
8. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “二次の位相モデルによる発振回路のロバストな同期現象解析”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2014-103, pp. 23-27 (2014). (査読なし)
9. W. Kurebayashi, T. Ishii, M. Hasegawa, and H. Nakao, “Design and control of noise-induced synchronization patterns”, Europhysics Letters (European Physical Society), Vol. 107, 10009 (pp. 1-6) (2014). (査読あり)
10. M. Kazama, W. Kurebayashi, T. Tsuchida, Y. Minoshima, M. Hasegawa, K. Kimura, and H. Nakao, “Enhancement of noise correlation for noise-induced synchronization of limit-cycle oscillators by threshold filtering”, Nonlinear Theory and its Applications, IEICE, Vol. 5, pp. 157-171 (2014). (査読あり)
11. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “カオス振動子における位相の定義について”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2013-164, pp. 1-2 (2014). (査読なし)
12. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “強く結合した非線形振動子の相互同期現象の理論的な解析”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2013-155, pp. 137-140 (2014). (査読なし)
13. 白坂将, 紅林亘, 中尾裕也, “ハイブリッド力学系におけるリミットサイクル振動子結合系の位相縮約法による解析”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2013-160, pp. 167-171 (2014). (査読なし)
14. 石井翼, 紅林亘, 中尾裕也, “所与の周期軌道と位相応答特性を持つ振動子の設計”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2013-161, pp. 163-166 (2014). (査読なし)
15. W. Kurebayashi, S. Shirasaka, and H. Nakao, "Phase Reduction Method for Strongly Perturbed Limit Cycle Oscillators", Physical Review Letters (American Physical Society), Vol. 111, 214101 (pp. 1-5) (2013). (査読あり)
16. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “位相縮約法によるカオス振動子のノイズ同期現象の解析”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2013-25, pp. 87-90 (2013). (査読なし)
17. 紅林亘, 白坂将, 中尾裕也, “強い摂動を受けるリミットサイクル振動子への位相縮約法の拡張とその応用”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2012-169, pp. 133-136 (2013). (査読なし)
18. 白坂将, 紅林亘, 中尾裕也, “ハイブリッドシステムにおけるリミットサイクル振動子に対する

位相縮約法とその応用”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2012-184, pp. 55-58 (2013). (査読なし)

19. 風間正弘, 蓑島勇太, 紅林亘, 中尾裕也, “環境データを用いた非線形振動子の共通ノイズ同期現象の解析, 電子情報通信学会技術研究報告”, NLP2012-161, pp. 87-90 (2013). (査読なし)
20. W. Kurebayashi, K. Fujiwara, H. Nakao, and T. Ikeguchi, “A Theory on Noise-Induced Synchronization of Chaotic Oscillators”, Proceedings of 2012 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 344-347 (2012). (査読あり)
21. T. Kawai, W. Kurebayashi, K. Fujiwara, K. Jin'no, Y. Horio, and T. Ikeguchi, “Synchronization Induced by Common Colored Noise on Electric Circuits”, Proceedings of 2012 International Conference on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 348-351 (2012). (査読あり)
22. W. Kurebayashi, K. Fujiwara, H. Nakao, and T. Ikeguchi, "Estimating Phase Response Functions Only from Noisy Multivariate Time Series", Proceedings of 2011 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, pp. 208-211 (2011). (査読あり)
23. W. Kurebayashi, K. Fujiwara, and T. Ikeguchi, "Colored noise induces synchronization of limit cycle oscillators", Europhysics Letters (European Physical Society), Vol. 97, 50009 (pp. 1-6) (2012). (査読あり)

紅林亘, 池口徹, “嗅球における確率同期現象と二状態間遷移”, 電子情報通信学会技術研究報告, NLP2010-3, pp. 13-18 (20